

ねんりんピックで輝く シニアの星



参加選手
体験談集

© ねんりんピック富山 2018 実行委員会

第31回全国健康福祉祭とやま大会

ねんりんピック富山2018

夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から
平成30年11月3日(土)~6日(火)



はじめに

ねんりんピック富山 2018 参加選手体験談集の刊行にあたって

第31回全国健康福祉祭とやま大会（ねんりんピック富山 2018）は、「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」をテーマに、多くの関係団体や開催地のボランティアの方々のご支援・ご協力のもと、2018年11月3日から6日までの4日間にわたって開催されました。

大会では、過去最多となる27種目のスポーツ・文化の交流大会、健康・福祉・生きがいに関する多彩なイベントが開催され、開催期間を通じ、延べ約55万人の方々にご参加をいただき、盛大な大会となりました。全国各地から集った約1万人の選手たちが日ごろの練習成果を発揮するとともに、競技仲間や地元の方々との交流、「おわら風の盆」に代表される伝統行事、新鮮な海の幸、風光明媚な県内の魅力を十分に満喫されました。

このたび、大会に参加された選手たちのエピソード・感想や大会当日の様子などをお伝えし、ねんりんピックの楽しさ・大会にかける選手たちの情熱をより多くの方々に知っていただくため、体験談集を作成することといたしました。

体験談から伝わってくる選手たちの強い思い、大会に向けての懸命な練習、周囲への感謝の心、試合・観光を共に楽しむ姿は、生きがい・健康づくりの大切さや心の豊かさについて改めて考える機会を与えてくれました。ひとりでも多くの方に読んでいただき、ねんりんピックで輝くシニアの素晴らしさを知っていただけたらと思います。

なお、体験談の募集にあたっては、各都道府県・政令指定都市の選手派遣団体の皆様に多大なるご協力をいただきました。ここに記して御礼申し上げます。

終わりに、ねんりんピック富山 2018に参加された選手の皆様、開催に尽力された富山県庁はじめ関係者各位、心温まるおもてなしをしていただいた県民の皆様、協賛いただきました企業・団体に心から感謝申し上げます、刊行の言葉といたします。

2019年3月

一般財団法人 長寿社会開発センター
理事長 河村博江

CONTENTS

北海道 東北



秋田県

伊藤孝志さん 卓球……………6

福島県

出口武志さん ソフトバレーボール……………7

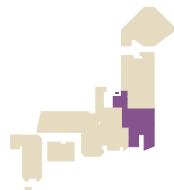
金澤幸一さん カロリーニング……………8

札幌市

西川光子さん 水泳……………9

工藤郁二さん 水泳……………10

関東 甲信越



茨城県

坪 浩さん パークゴルフ……………12

栃木県

藤沼幸子さん 弓道……………13

小島正紀さん グラウンド・ゴルフ……………14

群馬県

小幡 普さん ウォークラリー……………15

丸山 徹さん ラグビーフットボール……………16

千葉県

白井栄子さん 弓道……………17

蜂須政利さん ソフトボール……………18

東京都

小室廣明さん テニス……………19

武士典央さん ソフトテニス……………20

神奈川県

千種正男・米子さん ダンススポーツ……………21

山梨県

大久保一雄さん ペタンク……………22

長野県

小越尚子さん 水泳……………23

さいたま市

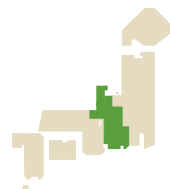
森田益行さん ウォークラリー……………24

石田達雄さん テニス……………25

横浜市

松岡 徹さん 健康マージャン……………26

東海 北陸



富山県

天野光正さん 囲碁……………28

塩莉洋子さん 太極拳……………29

福井県

高橋研一さん ウォークラリー……………30

内倉輝子さん 囲碁……………31

岐阜県

神谷正敏さん 剣道……………32

静岡県

佐々木芳博さん マラソン……………33

田中美子さん ウォークラリー……………34

愛知県

高木 順さん テニス……………35

三重県

佐藤慶男さん ソフトバレーボール……………36

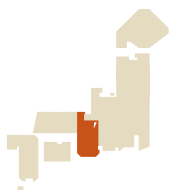
北川貴志さん サッカー……………37

静岡市

杉山和子さん 俳句……………38

ねんりんピック富山2018

近畿



京都府

藤井 貢さん サッカー……………40

兵庫県

佐川純雄さん グラウンド・ゴルフ……………41

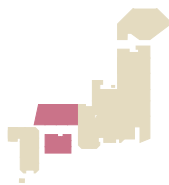
奈良県

浜田健治さん 水泳……………42

大阪市

古跡孝和さん 弓道……………43

中国 ・ 四国



鳥取県

岡田清次さん ソフトボール……………46

熊田熙代さん 弓道……………47

島根県

田城真理子さん ペタンク……………48

佐藤 豊さん カローリング……………49

岡山県

葭野浩道さん カローリング……………50

永守修一さん ペタンク……………51

山口県

西嶋眞彌さん ソフトテニス……………52

河田邦代さん ソフトバレーボール……………53

徳島県

藤森 勲さん カローリング……………54

新開 均さん ソフトテニス……………55

香川県

久保 隆さん ソフトボール……………56

大西芳樹さん 将棋……………57

高知県

小野山征男さん 俳句……………58

岡山市

中村郁代さん ソフトテニス……………59

広島市

小村 堯さん 水泳……………60

九州



長崎県

増田明子さん ソフトテニス……………62

熊本県

小笠原亨さん 卓球……………63

瀬海幸一さん ソフトボール……………64

宮崎県

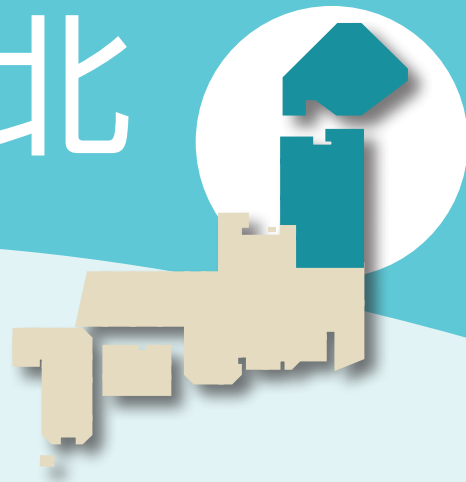
愛甲鈴代さん ゲートボール……………65



駒木省三さん ボウリング……………66

Information……………67



北海道・東北



秋田県	伊藤孝志さん		卓球	6
福島県	出口武志さん		ソフトバレーボール	7
	金澤幸一さん		カローリング	8
札幌市	西川光子さん		水泳	9
	工藤郁二さん		水泳	10



卓 球 「秋田県卓球協会」(監督兼選手)

いとうたかし

伊藤孝志さん

72歳

●参加歴：4回目

一致団結で勝ち上がった決勝はフルセットの大接戦！

昨年、わんりんピック秋田2017の卓球競技は横手市を会場に開催され、関係者のご尽力により大成功を収め、ホッと胸をなで下ろしたのも束の間、今年のとやま大会への参加者が申込締切ギリギリまで決まらず、本当に苦勞しました。

いろいろ手を尽くし難産の末に産声を上げたチームは、昨年に勝るとも劣らない布陣に落ち着き、秋田での雪辱を果たすべく「一致団結」「メダル獲得」を合言葉に切磋琢磨して臨むことになりました。

富山市内や魚津市内からは、雪を頂いた3000m級の立山連峰の勇姿が、朝には朝陽を浴びて光り輝き、夕方には沈む夕日に赤く染まった逞しさを誇示し、歓迎をしてくれているようでした。

11月2日は時折小雨が交じる中、遠隔地・富山県まで終日移動日。

翌3日は好天の下、富山県総合運動公園陸上競技場での総合開会式が盛大に行われ、午後からは種目別の会場(卓球は魚津市)へ移動して監督会議・開始式。

試合は4日～5日の2日間の日程で熱戦が繰り広げられました。

試合の結果は、初日の第1次予選リーグで高知県に勝利したものの、茨城県に敗れ2位通過で第2次予選リーグを迎えることとなりました。

第2次予選リーグでは神奈川県と長野県に完勝し、念願の決勝トーナメント進出を果

たしました。

抽選により決勝トーナメントの初戦は神戸市と対戦し3-0で勝利、準決勝では広島県を3-1で下し、決勝にコマを進めることができました。

決勝の相手は優勝候補にもあげられた強豪・熊本県で、2-2の5番勝負にもつれ込む大接戦。5番も一進一退のフルセットまで粘りましたが、惜敗してしまいました。

予選リーグ・決勝トーナメントを通じて、各県代表選手との対戦は厳しい場面が多々あり、その都度ベンチの盛り上がりは「一致団結」そのものでありました。

団体戦の醍醐味を楽しみながら、予選2位通過とはいえ決勝トーナメント進出を果たし、銀メダル(優秀賞)を獲得できたことはこの上ない喜びでした。



予選リーグで、茨城のチームと試合開始の挨拶。(向かって奥右端)



ソフトバレーボール 「白河さくら」チーム（選手代表）

でぐちたけし
出口武志さん

66歳

●参加歴：1回目

仲間との絆に支えられ、夫婦そろって再挑戦を！

「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」をスローガンに開催された、ねんりんピック富山2018のソフトバレーボール福島県予選会は、福島市国体記念体育館で5月24日に開催されました。私たちはこれまで何度かこの大会にチャレンジしてきましたが、今一步のところで夢絶たれてきました。今回、エントリーされたチーム数は14チーム。2つのブロックに分かれて熱戦が繰り広げられ、接戦の末、私たち「白河さくら」が福島県の代表権を獲得することができました。メンバーとともに喜びを分かち合ったことが今でも鮮明に思い出されます。また、長年胸に秘めていた夫婦そろって出場する夢がかなえられた瞬間でもあり、私にとっては特別な優勝でした。ソフトバレーボール競技部門に限らず、夫婦がスポーツに興味を持ち、同じ競技を共通の目標として一緒に汗を流すことができることはすばらしいことと考えます。

11月3日、富山県総合運動公園陸上競技場において総合開会式が行われましたが、入場行進

時の演出、規模、催されたアトラクション等、私にとっては想像を超えるものであり、生涯忘れられない思い出となりました。ソフトバレーボール交流大会は黒部市で開催され、初日の予選リーグでは2位グループに入り健闘しましたが、翌日の順位別リーグでは、全敗という結果で、心残りのある大会となりました。

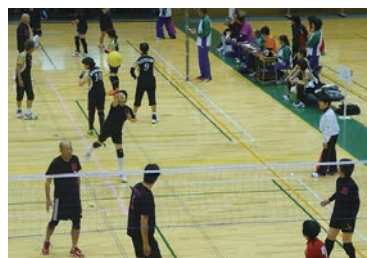
交流戦が終了した後、メンバー8名とともに宇奈月温泉に向かい、温泉でゆっくりと心と体の疲れを癒し、温泉街を散策しながらお土産などたくさん買い物をしたことが楽しい思い出となっています。

大会を終えた今、私たちの戦いを振り返ってみると、全国とのレベルの差は感じましたが、大きく離されていないという思いを強く持ちました。

「もう一度チャレンジ」。この気持ちを仲間と持ち続けていくことができれば、再出場も可能であると思います。還暦から7年が過ぎた今、私も高年齢期に入り、年々思うように動かなくなる自分の身体を感じます。しかし、妻から「70歳になってもプレーができる現役でいよう」と激励を受け、これからもソフトバレーボールを楽しみ、汗を流していきたいと思っています。



チーム全員の絆で戦い抜いた。(右から2人目)



得意のサーブで決める！



カローリング 「塙」チーム(監督兼選手)

かなざわこういち

金澤幸一さん

66歳

●参加歴：1回目

メンバーは80歳以上！ 福島の応援を胸に健闘

ねんりんピック富山2018で初めての開催となったカローリング競技。カローリングは子供から高齢者まで年齢、性別、体力に関係なく参加できるコミュニケーションスポーツで、インング毎の最終で逆転のあるスリル溢れるスポーツです。しかし、競技人口が少なく、ねんりんピックを通して競技者を増やしたいとの思いを選手全員が持っていたと思います。

我がチームはねんりんピック予選会でもある第12回福島県カローリング大会に出場し、第3位。悔しい思いをしましたが、数日後、対象チームに出場資格がなく、私たちにねんりんピックに出てほしいと連絡がありました。私以外は80歳を超える高齢者チームですが、メンバーに相談するとふたつ返事で出場できるとの事。即答に感謝し、参加を決意しました。福島県選手団に合流すると、移動の方法、食事、宿泊先等の全ての資料がそろっていて不安が解消されました。段取りしてくださった県の事務局に大変感謝しました。

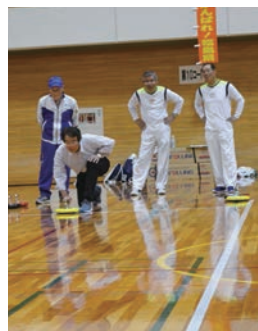
総合開会式はメンバーの体力面の心配をしながら行進に参加しましたが、整然とした進行やアトラクションの素晴らしさに時間を感じな

いほどでした。さらに入善町でのカローリング開始式では、町一丸となって大会を運営する姿に感謝。メンバーが大会最高齢者賞を受賞したことに喜びもありましたし、心配だった体調面は全く問題なく、楽しく参加できました。夕食では、地元の美味しい料理をいただき、2日目も無事終了。そして3日目、大会の初戦は地元富山県のチームでした。会場には富山の応援団がいたため、私たちは福島県の代表であることや、福島県カローリング協会会長等から応援いただいたことなど、いろいろな思いがめぐるなか、声を掛け合うことも少なく、敗退してしまいました。2回戦、愛知県のチームとの対戦では声掛けや指示出しができるようになり、14点とまずまずの得点で勝利できました。成績は54チーム中22位でしたが、楽しく参加できたのがいちばんでした。監督兼選手で出場した私ですが、ゲームの状況やチームの雰囲気をもっと把握すべきという課題も見え、再度挑戦したいと思います。

サポートしていただいた県老人クラブ連合会の皆さん、富山大会役員の皆様、入善町の皆様、福島県カローリング協会会長、そして、送り出してくださった塙町及びはなわスポーツクラブに感謝申し上げます。



総合開会式会場にて、入場行進前。(右端)



試合前練習でジェットローラを滑らせる金澤さん。



水泳

クロール 25m、背泳ぎ 50m
混合リレー 100m

「札幌市選手団」

にしかわみつこ

西川光子さん

68歳

●参加歴：2回目

大会で広がる輪を大切に、目指せ100歳スイマー！

ねりんピックの開会式が行われた富山県総合運動公園陸上競技場の観覧席から見た立山連峰は壮大でした。今まで見たことのないとても高い山並みで、圧倒されると同時に静かなる山に心を癒される感覚でした。

開会式はお天気も良く、11月なのに気温は20度。過ごしやすい気候でした。札幌から参加した私たちは、寒さ対策をたくさんしてきましたが、無用の長物となりました。

選手入場はとても高揚感に満ちていました。ねりんピックは想像以上の規模で行われます。参加して初めて知りました。全国から1万人が集結しています。テレビなどで見るオリンピック開会式と図式は一緒ですが、違うのは選手が60歳以上の高齢者であることです。このような体験ができ、とても誇らしく感じました。

翌日から競技が始まりました。私は第1日目

の水泳種目、プログラム番号1、50m背泳ぎの4組目に出場しました。札幌ではトップバッターで、緊張感を持ちながらもチームメイトの声援を受け、思い切りプールに飛びこみました。結果はメダルには到達できませんでしたが、いつもの大会と変わらないタイムで、自分の実力は出せたと思います。

私は札幌市のウェルネスクラブで水泳の練習をしています。スイムトレーニングというプログラムに参加し、そこでいろいろと指導を受けます。今回ウェルネスクラブのTシャツを着ていたら、「私もどここの何店の会員です」と声をかけてくれる方たちがたくさんいて、お互いのお店の情報交換などをしました。

北海道胆振東部地震の影響で合同練習ができなかったため、札幌市の水泳チームでも初対面の方々が多くおられました。北海道で同じ競技大会に出場していたのですが、所属するチームや練習する場所が違いますから、お名前すら知りませんでした。しかし、これからは水泳仲間の輪が広がりそうです。大会に参加して交流を深めるのがとても楽しみになりました。それ以上に自分も健康に留意して『目指せ100歳スイマー』と思っています。



プール会場の応援席でメンバーと。(前列中央)



開会式にて選手団のスタンドで昼食。



水泳

平泳ぎ 25m・50m 「札幌市選手団」
混合リレー 100m

く どう ゆ う じ

工藤郁二さん

61歳

●参加歴：1回目

祖父の歴史を感じる富山で、練習の成果を発揮

ねりんピックの声がかかった時、11月4日～5日に富山で開催すると知りました。富山と言えば、私の祖父の生まれ故郷。明治の時代、祖父が幼い頃に新天地を求めて家族と北海道に渡ってきたと、生前話していたのを覚えています。

私は今まで一度も富山に行ったことがなく、ぜひ参加したいと思いましたし、ねりんピックについても以前から一度は参加してみたいと思っていました。以上のことからスケジュールの確認を行い、積極的に申し込みましたが、実際参加してみると期待以上のものが数多くありました。

1つ目は、初日に宿泊したところでの紅葉です。11月の時期に、北海道では観賞できなくなった紅葉を見たときは、異国に来たのだなという思いで感動しました。

2つ目は、全国から集まった1万人の選手団が入場した開会式です。全日本大会に自分が参加しているという、気持ちの高揚感が心地よかったです。

3つ目は、食べ物です。山のものあり海のもの

のあり、おいしいものをいただき満足感でいっぱいでした。特に鱒ずしは腹が破裂しそうな程食べました。

4つ目は、越中売薬の歴史です。「廣貫堂資料館」では昔懐かしい薬袋を見ることができました。また、実は富山生まれの祖父は昭和30年代に富山から時々、薬を大量に取り寄せて道南地方で行商をしていたため、祖父の商売用の薬箱で見た「孫太郎虫（まごたろうむし）」という漢方薬を探しながら展示品を見ていたのですが、とうとう「薬種商の館 金岡邸」で見つけて、とても感慨深い気持ちになりました。

最後の5つ目は競技の成績です。札幌市からは長年水泳の練習を継続してきた8人の選手が出場しましたが、全員で力を合わせた混合メドレーリレーは、平均年齢70歳以下の部では20位、平均年齢70歳以上の部では16位でした。全国各地区代表の選手たちの中にあって、りっぱな成績だったと思いますし、充実感を得ることができました。

本大会開催にあたり、これらの多くの感動や思い出を与えてくださった大会関係機関や大会スタッフの皆様方、そして水泳をこれからも継続し、「再度出場したいね」と言いあった選手の皆には感謝を申し上げたいと思います。

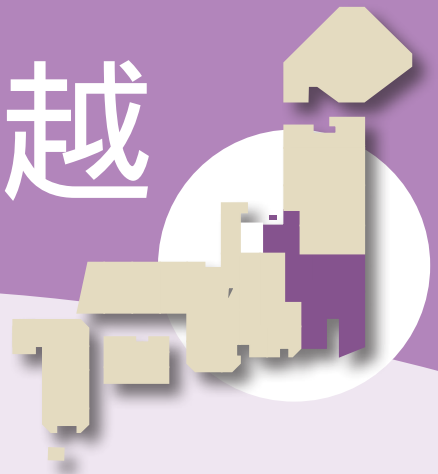


水泳を通じて繋がった札幌チームの8人。(左端)



スタートが決め手! (手前から2人目)

関東・甲信越



茨城県	坏 浩さん		パークゴルフ	12
栃木県	藤沼幸子さん		弓道	13
	小島正紀さん		グラウンド・ゴルフ	14
群馬県	小幡 普さん		ウォークラリー	15
	丸山 徹さん		ラグビーフットボール	16
千葉県	白井栄子さん		弓道	17
	蜂須政利さん		ソフトボール	18
東京都	小室廣明さん		テニス	19
	武士典央さん		ソフトテニス	20
神奈川県	千種正男・米子さん		ダンススポーツ	21
山梨県	大久保一雄さん		ペタンク	22
長野県	小越尚子さん		水泳	23
さいたま市	森田益行さん		ウォークラリー	24
	石田達雄さん		テニス	25
横浜市	松岡 徹さん		健康マーじゃん	26



パークゴルフ 「大洗」チーム(選手代表)

あくつ ひろし

坏 浩さん 79歳 ●参加歴：2回目

仲間が受賞！ 決起会で気持ちを高めて大会へ

私はねんりんピック北海道・札幌2009に参加しており、今回は2回目の参加となります。総合開会式前日に東京駅に集合し、新幹線と貸切バスで開催県を目指し移動しました。前泊の宿泊施設では茨城県選手団が一堂に会し、決起会が開催されました。大会への意気込みなどを話し、気持ちが盛り上がりました。

翌日は早朝に宿泊施設を出発し、総合開会式会場へ移動しました。開会式では北海道選手団から順に入場し、本県は福島県選手団に続いて行進をしました。メインスタンドに差し掛かったところで、紹介アナウンスに合わせて全員で帽子を取り、メインスタンドに向かって振りながらアピールをしました。スタンドを見上げると観覧者の多さに感動しました。その後、スタンド席へ移動すると、正面に雪をかぶった立山連峰を望むことができました。

翌日からはいよいよ交流大会ですが、パークゴルフは4日が練習日、5日が交流大会で、射水市の会場へ向かうと大会関係の皆様が歓迎され、富山県の皆様の温かさを感じました。大会当日、会場には全国の選手133名が集合し、地

元の子供たちによるアトラクション後、開始式と交流大会が行われました。

パークゴルフは1983年に北海道幕別町の小さな公園の芝生で誕生し、「自然を大切に」「三世代交流のスポーツ」「安全で楽しいスポーツ」という要素があります。多くの人が集い賑わってこそ公園の意味があり、そこにふさわしいスポーツとしてパークゴルフを創造したそうです。

試合の結果、個人戦、団体戦ともに富山県の選手が上位を占め、残念ながら入賞はかありませんでした。しかし、同じチームの小松崎選手が最高齢者賞(女性)、大川選手が高齢者賞(女性)を受賞しました。

最終日は、チームメンバーで五箇山の相倉合掌造り集落と瑞泉寺を観光しました。昼食には、富山湾でとれた新鮮な魚を食べ、帰路につきました。大会に参加し、選手との交流を通して楽しむことができました。また、関係者の皆様の温かさを感じたり、観光名所や食べ物などを楽しんだり、全国持ち回りで開催されるこの大会の醍醐味を感じました。

結びに、主催者および大会関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。



チームの集合写真。(左から2人目)



寝食を共にし、メンバーとの絆も深まった。(左)



弓道 「栃木県」チーム

ふじぬまゆき こ

藤沼幸子さん

88歳

●参加歴：5回目

一生一事一貫 ——人生とは一生に一事を貫くこと

私は学生時代、弓道の姿に憧れ弓道部に入部しましたが、すぐに終戦となり、弓具は武器として没収されてしまいました。それから就職し定年後、憧れの弓道場へ行き入部しました。若い方や素晴らしい先輩、立派な先生に教えをいただいたおかげで、とやま大会の県代表選手として、88歳、今回で5度目のねんりんピック出場となりました。

11月の富山はさぞ寒いだろうと、ダウンを着込み大きな荷物を背負って宇都宮駅を出発しました。雄大な立山連峰を眺め、富山駅に到着。なんと汗ばむ暖かさで私たちを迎えてくれました。その後はバスに乗り、ホテルに到着。夕食は魚をご馳走になり、コップのコースターに「たくさんあるホテルの中、当館を選んでくれてありがとうございます」という手書きのメッセージがあり、もてなしに感激しました。

総合開会式では、富山県総合運動公園陸上競技場で越中太鼓の鳴り響く中、国旗を掲げ諸先生方のご挨拶をいただき、地元の人々や可愛い応援サポーターと交流し感動しました。大きな画面に選手団が映し出されたときには、とやま大会に向けてやる気満々になりました。会場では富山銘菓がずらりと並び、試食をしました。地元の越中おわらも拝見。大拍手でした。その後、小杉文化センターで弓道の開会式に参加し、前座の小杉爆笑劇団の介護予防・

認知症・高齢者との接し方等、弓道を通して面白く楽しく・分かりやすい寸劇を拝見し爆笑しました。市長をはじめ歓迎のお言葉をいただき、最高齢者・高齢者特別賞の表彰を受け、賞状・楯・記念品をいただきました。表彰の際、壇上で緊張して涙が出てしまいました。

大会当日、大鳥弓道場では胴着一枚でも熱気が伝わってきました。ここでも大画面で射場内の選手達の様子が拝見でき、見惚れました。以前の大会で一緒だった選手の方と再会し握手をしましたが、その傍らで「また来るの」と他の方に冷笑されました。それでも、「職場には定年があっても、人生に定年はない。いくつになっても自分で舵を取り続ける生き方、明日がある限り未来がある！」を心に、丹田に力を入れて射場に入り、大きな拍手をいただきました。

とやま大会では練習の成果を発揮できず残念でしたが、お世話になったとちぎ健康福祉協会の役員の方々、富山県の皆さんに心から感謝し御礼を申し上げます。次回の優勝を夢見て、日々練習を重ね生涯現役に励んでいきたいと思います。



凛々しい姿で弓を引く藤沼さん。



試合前で緊張の面持ち。(前列右から2人目)



グラウンド・ゴルフ 「栃木県」チーム

こじままさのり

小島正紀さん

73歳

●参加歴：1回目

長年の夢を達成！ピンチを乗り越え逆転優勝

天高く澄み切った青空、はらかな北の方向に冠雪した、美しい立山連峰。このような絶景の中、ねんりんピック富山2018の総合開会式が富山市で開催されました。

栃木県選手団は、右手にイチゴの風船を掲げ、旗手の私を先頭に堂々たる行進でした。石井富山県知事が「富山県は年間を通して天候の悪い日が多く、今日のように日本晴れで立山連峰も鮮明に見える日は少ない。私たち富山県民は心から歓迎いたします。どうか皆さんの思い出の一頁になればと思います」と挨拶をしたことが印象に残っています。富山県民の歓迎の催しが素晴らしい総合開会式でした。

グラウンド・ゴルフ大会は場所を変え、高岡市にある高岡西部総合公園で開催されました。屋内の人工芝グラウンドで行われた競技開会式で、栃木県のグラウンド・ゴルフチームは、政令指定都市を含め約390名の選手と競うことがわかりました。交歓ゲームは、男性260名で8

ホール×3ラウンド＝24ホール（11月4日に2ラウンド、5日に1ラウンド）となり、私が対戦した兵庫県の選手は強敵でした。11月4日終了時点では、1打差で負けていました。翌11月5日には、初めから2回連続でホールインワンを達成し、そのまま調子を落とさず8ホールを11点で終了。2点差をつけて優勝しました。強敵であった兵庫県の選手から「栃木県の小島選手は、大変ピンチに強い人で驚いた」と言葉をかけてもらいました。振り返れば、私は大変幸運であったと思います。

「明るく 楽しく 元気よく」をモットーに、地元の上三川町グラウンド・ゴルフ協会の会員の皆さんと地道に練習を積み重ねてきましたが、長い年月の夢を達成でき感無量です。これからも、「地域の振興と活性」「健康と体力の増進」「技術の研鑽」に努力する所存です。大勢の人から、心温まる激励をいただき、ありがとうございました。

また、とやま大会では全国の選手と交流を深めて参りました。別の大会でいつかまた会うことが楽しみです。結びに、栃木県グラウンド・ゴルフ協会、上三川町グラウンド・ゴルフ協会の皆様へ感謝申し上げます。



堂々と栃木県旗を持つ小島さん。



プレイ中、真剣な表情。



ウォークラリー 「名月赤城山」チーム

おばた すすむ

小幡 普さん

77歳

●参加歴：3回目

坂の多い難路に苦戦を強いられるも無事に完歩

11月2日、群馬県選手団139名は、高崎駅に集合し北陸新幹線「はくたか」に乗り、黒部宇奈月温泉駅で下車し「宇奈月温泉延対寺荘」で宿泊しました。お肌ツルツルの美人の湯に浸かり、飲み放題で一夜を過ごしました。

総合開会式では、群馬県は小旗を持って選手団入場行進をし、約一時間半の間、素晴らしいアトラクションと集団演技を鑑賞し、堪能しました。又メインナビゲーターは富山市出身の女優の柴田理恵さんが務め、司会者と共に式典を進行し、会場を盛り上げてくれました。

終了後は、ウォークラリー会場のある「立山温泉グリーンビュー立山」に宿泊し、再度お肌ツルツルの温泉で英気を養い、翌日の大会に備えて早寝をしました。

大会当日は晴れ時々曇りの天気で、バスで大会会場のグリーンパーク吉峰よしみね交流館前に到着。受付でゼッケンナンバー「4」をもらい、野外テントの指定席に陣取りました。群馬県のアテンダーは、弓道部に所属する中学1年生で、全コース同行し明るく振る舞ってくれました。

立山コースの10時3分4番目のスタートで平均77歳の「名月赤城山」チームがスタート。林業試験場樹木園の中を紆余曲折ありながら、26のコマ図中に13のチェックポイント（CP）を回答して進みました。ところがCP5あたりから完全な上り坂になり、昨年の平地と違い、息も絶え絶えになりました。高齢の高山清平さんも休み休み、足の痛みを感じながらよく頑張ってくれました。CP6、7を過ぎると下り坂になり、階段は浮き上がる木材に足が引っかけられないよう、支え合いながら奮闘しました。今年のゲームは輪投げでしたが、なかなか難しく点数になりませんでした。約2時間20分をかけてゴールしましたが、司会者の実況放送やスタッフの拍手やかけ声もあり、賑やかに元気よく戻ることができました。表彰式では、89歳の高山さんが最高齢での表彰をもらい、参加者、スタッフから大拍手と喝采が起きました。チーム成績は立山コース22チーム中19位でしたが、素晴らしいロケーションの中楽しく完歩できたことに、感謝申し上げます。



平均年齢77歳のチームメンバーとともに。(右から2人目)



ラグビーフットボール 「群馬惑惑倶楽部」

まるやま とおる

丸山 徹さん

65歳

● 参加歴：5回目

新人が大活躍！ チームに可能性を感じた大会

全国からの選手約1万人で盛大に行われた開会式後は、交流会場で伝統芸能のショーを見て過ごした。若い女性が生き生きと和太鼓を叩く姿に感動し、「おわら風の盆」という踊りでは地元の高校生が三味線と物悲しい胡弓の調べに乗せて編み笠で顔を隠し、やわらかな手の動きだけで表現しているのが、優美で涙があふれた。

3泊した北山鉱泉では、きときと（富山弁で「新鮮」）な海の幸をはじめとした食事を楽しみ、毎晩酒が進んだ。

最近の我がチームはボックスのスピードに優れ、オープンに回せばトライできたのだが、初戦の福井県のチームはよく走り、70代の黄色パンツの方に抜かれそうになったり、うちの快速ウイングが独走中に追いつかれてタックルされ、肩を怪我して退場し、残念ながら次戦も出場できなくなってしまったりした。しかし、今回の我がチームは新人の若手3名を中心によく走り、縦・縦の攻撃でつないで3本のトライをあげ、17-7で勝つことができた。私はというと、以前から右脚の股関節を痛めているうえに腰がひどく痛んで満足なプレイができず、みんなに迷惑をかけるからと途中交代してしまった。きっと明日こそ！

2日目の最終試合は、富山県の選抜チームが開催県のプライドをかけて群馬を蹴散らして大会を締めくくるつもりで思えた。いっ

そう気合を入れた我がチームは、フォワードがオーバーザトップの反則を取られるくらいの勢いでボールを奪取したり、ボックスもハードタックルで倒したりして頑張り、3本のトライをあげて19-0と相手を完封。新人が活躍したおかげで、中心選手のトライがなくても勝つことができた。このチームはきっと明日はもっと強くなれるだろう。来年の和歌山大会ではラグビーが開催されないのが残念だが、再来年のぎふ大会ではもっと良い試合ができるだろう。ところで私はというと、前日より頑張れた。そして試合も終わりが近づいたころ、縦の攻撃が成功し相手のゴール前まで迫ったときに、ボールが私のところへ回ってきた。ボールを抱えたまま目の前の相手に体当たりして跳ね飛ばし、そのままトライラインに飛び込んだ。やっとそれらしい仕事ができ、面目を保つことができた。

帰路は立山黒部アルペンルートを通り、劔岳など北アルプスの雪山もくっきりと見ることができた。巨大な黒部ダムので堰堤を歩き、その大きさや放水の威力を味わえた。



相手のタックルをはね飛ばす気迫あふれる丸山さん。(中央)



帰路で立ち寄った黒部ダムにて。(後列右から2人目)



弓道 「千葉県」チーム

しら い えい こ

白井 栄子 さん

93 歳

● 参加歴：2 回目

週3回、共に励む仲間を支えに、93 歳で出場

2017年9月に弓道のシニア大会が千葉県総合スポーツセンター弓道場で開催されました。参加者230名中ただ1人六射皆中で優勝し、表彰式で新倉喜代司顧問より「最高齢者でこの結果は素晴らしい。この一言に尽きる」と称されました。私自身、どのような射を引いたのか全然思い出せません。しかし、午後の四射を引き終わったとき一斉に拍手をいただき、初めて皆中したのがわかりました。2018年の2月にとやま大会への出場の話がありました。8月に選手の発表があり、結団式で選手宣誓の大役を任せられました。不安はありましたが、社会福祉協議会の方のご指導で、戸惑いながらもなんとか無事にやり終え、ほっといたしました。

11月2日早朝の出発で、北陸の富山は寒いと想像していましたが、暖かすぎるくらいの天候でした。「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」のテーマのごとく、明るく温かく迎えられ、3日は快晴の青空のもと開会式に参列しました。参加者は1万600人くらいとのことでした。千葉県は15番目に入場し、メインスタンドからの歓声に、県花の「菜の花」をふりながら応えました。参加者の皆さんが澁瀾と行進する姿、さらには2時間の開会式の間ずっと整列されている姿に、普段から心身を鍛えていると感じました。

その後、夕方から射水市

での開始式に参加し、市長や名士の方々から激励のお言葉をいただきました。続いて、93歳の私は最高齢者として立派な楯と賞状、それに特別賞として射水市特産のベニズワイガニの目録をいただきました。

11月4日・5日の競技では、チーム5人の力が及ばず、残念ながら決勝進出となりませんでした。結果は出せませんでした。大会後宿に戻り、ホテルから雪の立山連峰が夕日に映える姿を見て、最高の思い出を作ることができました。

豊かな自然の中で家庭菜園や趣味の花作りなどをしながら、自宅の弓道場で地元の大学生や日中仕事で練習できない方たちと、夜7時～9時まで、週に3回練習しています。これが心の支えとなって、日々を過ごしています。苦しい道のりもありましたが、弓道の発展のために目標を高く持ち、頑張っていたら弓の先生方、多くの弓友に支えられ、今日を迎えられたことを心より感謝申し上げます。最後に、ねんりんピックの今後の益々のご発展を祈念申し上げます。



狙いを定め、矢を放つ瞬間。



結団式で選手宣誓をする白井さん。



ソフトボール 「浦安シニアソフトクラブ」(監督兼選手)

はちすまさとし

蜂須政利さん

81歳

●参加歴：3回目

憧れの場、ねんりんピックを目指して頑張れ！

私たちシニアソフトボール・チームは、千葉県内各市のシニアチーム12チームで、千葉県シニアソフトボール連盟を結成し、毎年各チーム2試合の総当たりのリーグ戦を実施しております。

我が浦安チームは、2003年の徳島大会・2010年のいしかわ大会に出場し、今回で3回目となりました。各大会共に、地方色豊かな特長がありました。今回は、富山駅の改札口を出た所で、チンドン屋さん達に迎えられてビックリしました。そういえば、富山県はチンドンコンクール大会が行われる事を思い出しました。

チンドンに迎えられた後、新湊きつときと市場で昼食し、買い物後、海王丸パークで帆船海王丸の中を見学したり、楽しかったです。

1日目の宿泊は魚津駅前のホテルで、夕食は近くのホテルに移動し、各種目の選手が種目別に壇上に上がり抱負などを述べ、皆さん楽しんでおりました。

翌日、富山県総合運動公園陸上競技場に移動し、総合開会式に臨みました。北海道より順番に、各県それぞれ趣向を凝らした入場をしており、最後は地元の富山県が行進し最高潮に達しました。開会式終了後、アトラクションの途中で監督会議が行われる富山県総合体育センターに移動し、会議終了後、同体育館で行われる開始式に出席しました。式典終了後のアトラクションが、チ

ンドンの演奏および越中おわらの唄と踊りで大変素晴らしく、他県の選手たちも感動しておりました。特に、越中おわら節の踊りがスローかつ優雅で私も感動しました。毎年9月に越中おわらの行事が行われるとの事で、かなりの人達が見学に来る観光名物だそうです。

2日目からの宿泊は呉羽ハイツで、富山市の中でも山岳地区と思われる場所でした。夜の野天風呂から一望できる富山市の夜景が素晴らしかったです。翌日より試合が開始され、1回戦で残念ながら敗戦となりました。翌々日に負けチーム同士で対戦し、最終回まで勝っていましたが、逆転負けになり残念でした。2試合とも負けましたが反省するところもあり、これからの課題と思います。

最後に、ねんりんピックはお年寄りの国体で、競技をしているすべての高齢者にとって憧れの場だと思います。私は今回が最後と思いますが、これからの皆様は頑張ってねんりんピックを目指してください。ありがとうございました。



選手団副団長と決意を新たに。(右)



浦安チームで熱戦を繰り広げた。(前左列から4人目)



テニス 「東京都B」チーム

こむろひろあき
小室廣明さん 62歳 ●参加歴：2回目

こころもカラダもお腹も&観光も満喫！

いや～、素晴らしい開会式でした！

快晴のもと、雪化粧を始めた立山連峰の眺望やさまざまな競技の選手団1万人以上の入場行進、趣向を凝らしたアトラクションにおもてなし等、フェスティバル感の溢れる開会式でした。

「想像力豊かな」は子どもに係る枕詞ともいえますが、どっこい、年齢を重ねてきたシニア世代にも転寝（うたたね）しながら夢と現実のはざまをさまようという特技（!?）、もとい、経験と現実を融合させてより強い現実感を創り出すという“夢力”があるのです。間近に迫った2020年の東京オリンピック。開会式の映像を目にした時に「ウン、ウン、わかる！グラウンドからスタジアムを眺めた時の景色や歓声、感動と高揚感！」と、より臨場感を伴って見入ることでしょう。気分はすっかり“オリンピック”です。

「ねんりんピック」は長崎での大会に続いて二度目ですが、実は開会式が一番の楽しみでした。開催県ごとに特徴のある演出はとても楽しく、豪華で素敵なエンターテインメントです。そして、期間中の楽しみ方にもちょっと工夫を。利用する交通手段をアレンジして、観光などの時間を多くとりました。

路面電車に乗って富山大学に行き、豊富なメニュー&リーズナブルな学食で美味しくランチ。帰りはブラブラ歩きながら、富山城公園や市役所展望台なども回りました。

開会式の夜は、メンバーの知り合いのついで穴場的な寿司割烹のお店でコース

料理に舌鼓。（お酒はほどほどにしてガマンです）

テニス交流大会では接戦をものにして勝ち進み、勝敗はもとより、沢山の試合を楽しめたことに大満足。おまけに、優秀賞のメダルもいただいで嬉しさもひとしおでした。

最終日はカナルパークを散策して、美しいロケーションにあることで有名なカフェのテラス席でコーヒータ임。それから閉会式を観覧。富山県出身の音楽家が歌う『少年時代』『ふるさとの空』、スクリーンに映し出される富山のふるさとの風景。それを眺めながら聴いているうちに、目頭が熱くなってしまいました。シニア世代にとって、子どもの頃の思い出は宝物。蘇る懐かしさに涙腺が刺激されたようです。でも、この涙は心地よいカタルシス。交流大会で昂った気持ちも静めてくれたように思います。

こころもカラダもお腹も、そして観光も満喫できた「ねんりんピック」でした♪

ア～、また参加したいナ～！



総合開会式会場にてグラウンドを背景に撮影。



ソフトテニス 「東京都 A」 チーム (監督兼選手)

たけし のりお

武士典央さん

61 歳

● 参加歴：1 回目

「とやま大会」 圧巻の開会式とブラックラーメン

この大会に出てみたいと思いついたのは、前年のあきた大会に参加した学生時代の女子先輩の感想を聞いたのが発端でした。そして2017年10月の東京都の予選に参加、運良く1位通過し、今回男子ダブルス代表として参加することができました。

11月3日、秋晴れの富山県総合運動公園陸上競技場で行われた総合開会式は、地元紙の号外に「富山に集う円熟の輝き」「全国47都道府県からシニア1万人が富山に集まった」と紹介されるほど見事なものでした。その開会式で私は幸運にも総勢271名の東京都選手団の旗手という大役を務めさせていただきました。東京都選手団結団式で小池百合子都知事の目の前で受けとった団旗を掲げ、炬火台のバックに広がった雄大な立山連峰に見守られながら入場行進した貴重な体験は、決して忘れることのない思い出となりました。

翌日からソフトテニスは高岡で交流大会が行われ、ミックスダブルス・男子ダブルス・女子ダブルス3ペア6名1チーム、東京都はAとBの2チーム総勢12名で参加しました。

予選リーグは、A・B両チームともに3戦全勝で予選第1位で通過、「決勝トーナメントではA・B同士で決勝だ!」と誰もがそんな気持ちになっていました。ホテルに戻るバスの中で「今夜は皆がそろそろ最後の晩、今日の勝利と明日の健闘を祈って乾杯しましょう!」と大いに盛り上がりました。全員で居酒屋へ行く

ことになり、皆の士気も上がり明日に向けていい時間を持つことができました。

ところがそこで解散のはずが、「どうしても有名なブラックラーメンが食べたい!」という誘惑に負けた数名が、閉店しようとしていたラーメン屋さんをお願いして入店し、ラーメンと餃子と生ビール2杯ずつを注文、これが本当にうまかった!

こうして十分に士気を高め翌日の試合に挑んだ我々でしたが、決勝トーナメントは残念ながら初戦敗退! 優勝はできませんでしたが、A・Bチームともに優秀賞を受賞しました。

富山という素晴らしい土地で天気にも恵まれ試合に参加できたこと、皆でチームを盛り上げ戦えたこと、そして美味しいブラックラーメンを食べたこと(?)も良い思い出になりました。

最後に大変お世話になった東京都・富山県の大会関係者の皆さん、富山県民の方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。



都知事から受け取った団旗を掲げ行進する武士さん。



ダンススポーツ 「チーム神奈川」

ちぐさまさお よねこ
千種正男・米子さん 79歳／77歳 ●参加歴：1回目

力を発揮し、決勝戦まで進んだ夢のようなとやま大会

2人合わせて156歳、ダンスを始めて10年の私共が、初めてのねんりんピックに参加しました。

ダンス団体戦は、チャチャチャ、ルンバ、ワルツ、タンゴの4種目で競われます。私共はタンゴを担当しましたが、他の3種目の方々はA級選手、私たちC級よりずっと若くて上手です。初対面で「決勝まで行きましょう！」と発破をかけられて、ドキドキしました。「ねんりんピックなので、楽しく気楽に」と考えていたので、正直言って、「これは大変なことになった」と思いました。

「今持っている力を精一杯出すしかない」と2人で覚悟を決めました。大会前に練習会を開いて、監督がつきっきりで、厳しくも温かく指導してくださり、大会期間中も常に見守ってアドバイスをしてくださいました。仲間の応援もあり、みんなの力で1次予選、2次予選、準決勝と勝ち進み、なんと決勝へ進出できました。49チーム中6位に入賞し、メダルを首に掛けていただき、まるで夢のようでした。監督、チームの皆さんのお陰で、幸せな思い出となりました。

開会式は、晴天の下、雪化粧した立山連峰を望む会場で、1万人の入場行進が盛大に執り行われ、まるでテレビで見るオリンピック

のようでした。富山の自然を、映像やダンス、伝統芸能で表現するアトラクション。地元の小学生がプラカード係、おもてなし係を務め、歓迎の横断幕を準備して盛り上げてくれました。

大会終了後も、泊まった宿で、観光中の街中で、ユニフォーム姿の参加者に声を掛けたり、掛けられたりと交流を楽しみました。

ダンスが開催された氷見市では、市長が氷見市ゆかりの万葉歌人・大伴家持に扮してダンスを披露したり、街を挙げて大歓迎してくれました。富山湾を隔てた対岸の立山連峰に昇る日の出は、息を飲むような荘厳な眺めで、天然のいけすと呼ばれる富山湾で取れる海の幸も堪能しました。

交流会終了後、訪れた富山城では戦国の歴史に思いを馳せ、市庁舎の壁、駅周辺の街路柱に飾られた色とりどりの歓迎の花籠が嬉しかったです。地元の魅力を知り、温かいおもてなしを受け、全国各地から集った仲間たちとの触れ合いを通じて、「来てよかった」としみじみと思える「思い出に残るねんりんピック」でした。

ダンスに参加した最高齢者が86才でした。私共も、「健康に気を付けて、ダンスの練習に励んで、何年後かにまた参加したいな」と思っています。



夫婦で力を合わせて決勝まで踊りきった。



ペタンク 「かいじ」チーム(監督兼選手)

おおく ぼかず お

大久保一雄さん 71歳 ●参加歴：5回目

メンバーに恵まれ、5回目の参加で全国制覇

私は、ペタンク競技に3人で参加してきました。ペタンクを始めて20年程になります。わんりんピックは、今から10年程前、北海道での大会に参加したのが初めてで(ペタンクは、毎年続けての参加はできません)、宮城県、栃木県、長崎県、今度の富山県と5回目です。参加するたびに地元の皆様をはじめ、他県の皆様と親睦を図りながら、地元の名産をいただいたり、名勝の見学をさせていただいたり、楽しんでいます。

今回のとやま大会は、全国47都道府県に政令指定都市を含めて67チームの参加で、全国制覇(優勝)をさせていただきました。今まで、ベスト8まではいったことがありますが、もちろん優勝は初めてです。ペタンクは、3人で競

技しますので、メンバーにも恵まれ、また、運も実力と申しますか、自分自身でもビックリでした。

普段は地元のメンバーと週3回程楽しくペタンクの練習をしています。山梨県の大会はもとより、関東近県の大会にも出かけて、皆様と親しくなっております。ペタンク競技には、日本選手権という全国の都道府県の代表を集めた大きな大会があり、この大会にも山梨県代表として何度か参加させてもらっています。ペタンクの競技は、単純ですが奥が深くおもしろいです。年齢に関係なく誰でも参加でき、そんなに広い場所がなくても練習ができます。皆様も一度練習をしている風景を見かけたら、お声をかけてください。一緒にペタンクをやりませんか。



優勝を喜び合ったチームメンバーと。(左端)



山梨県選手団の入場行進。「風林火山」ののぼりが目を引いた。



水泳 平泳ぎ 25m・50m 「長野県」チーム(選手代表)

こごしなおこ
小越尚子さん 66歳 ●参加歴：1回目

大舞台で自己ベストを記録！100mレースにも意欲

「60歳以上が出られるミニ国体に出てみたら？今年も富山市でやるけど、いい街よ」。ジャパンマスターズ短水路大会で、水泳仲間から紹介された。それが私の「ねんりんピック」との出会いだった。

長野県水泳連盟では私が初めて、1人での参加という。主人の仕事の都合でこの4月から長野県に引っ越してきたばかりの私は、こうして長野県のユニフォームを着てねんりんピックに参加することになった。

いよいよ11月2日、富山へ出発の日。バス3台を連ねて富山に向かった。他の競技参加者は、私が1人で参加しているとわかると、少し驚き、そして優しく輪に入れてくれた。

開会式当日は、晴天そのもの。競技場への入場行進、炬火点灯、そして民謡や越中太鼓、チアリーダーや太極拳の演武見学等、盛り沢山。競技場の周りには、たくさんのテント村ができていて、見て歩くのに楽しかった。

水泳会場は富山市民プール。きれいで、ゆったりしていて、泳ぎやすい。おもてなしコーナーでは、豚汁やすり身汁、コーヒーなどのドリンク類も無料でふるまわれた。また、理学療法士の皆さんがマッサージ等の調整をしてくれた。至れり尽くせりの大会なので、自己ベストが出た。平泳ぎ50m 1位。平泳ぎ25m 2位。

水泳交流大会へお願いが2つ。最近のシニアは元気。是非100mのレースも組んでほしい。そして

80歳以上を一括にしないで、80～84歳、85歳～89歳の枠も作ってほしいなと希望します。

競技の間をぬって、富山県立美術館を見学。ねんりんピックのIDで入場無料。大通りでは街頭にねんりんピックの旗がはためき、歓迎されているなど感じた。

福島県代表の相楽さんと、試合後高岡市を観光。国宝の瑞龍寺の伽藍の存在感に圧倒された。そして万葉線に乗って、格子戸の街並みの金屋町や土蔵が並ぶ山町筋を歩き回った。

お土産を買うのに忙しく、飛び乗った新幹線で食べたお寿司がキトキト。ねんりんピックに来てよかった、楽しかった！友人とビールで思わず乾杯した。

ねんりんピックは、3泊4日以上の新幹線だけに他の競技の方々や、他地域の選手ともゆっくりお話してきた。皆さんの前向きな姿勢から挑戦する勇気をいただいた。長野県長寿社会開発センター職員の方々、そして富山の皆様ありがとうございました！



表彰台の一番上に立つ小越さん。(中央)



高岡観光も楽しんだ。



ウォークラリー 「さいたま市」チーム(選手代表)

もり たますゆき

森田 益行さん

77歳

●参加歴：8回目

大自然の難路を完歩し、諦めていた入賞に歓喜

ねりんピック富山2018のウォークラリー大会会場は、町内いたるところから立山連峰が望めて「絶景の宝庫」と謳われている自然環境の素晴らしい立山町で、山歩きの好きな小生にとっては最高の舞台であり、立山町の魅力的な自然をたっぷり味わえるとワクワクしながら参加した。

競技当日、やや曇り空のなか、開始式会場であるグリーンパーク吉峰のよしみね交流館前に集合、ゼッケン、コマ図、記録表などを確認し、開始式終了後、午前10時ちょうどから、いよいよゼッケン番号順にスタート。我々さいたま市チームはゼッケンナンバー16で、午前10時15分に大勢の関係者や地元の人たちの大きな声援を受けながら、5人全員でエイエイオーの掛け声勇ましく元気一杯スタートした。

コースは森林研究所を中心として起伏があり、時間が相当読みづらく、道も未舗装のところが多かった。前半コマ図4の川の表示箇所が見当たらず、700mか800mほど先まで進んでしまい時間をかなりロス。課題には立山町らしい切り株から樹齢を読み取るなど、植物や森林研究所関係のものが多く興味深く楽しむことができた。残念だったのは、課題得点の大きなポイントであるゲームの「輪投げ」で、軽い輪の感触が十分掴めないままトップで投げた小生から入らず、メン

バー5人とも誰も入れることができなかったためこの得点は0と、万事休すの思いでゴールに辿り着いた。

この大会で驚かされたのは、競技説明でお話はあったものの、競技途中でクマよけのための爆竹の音を何度か聞いたことだ。このコースが熊の生息域という大自然の懐での競技であることに気づかされ、あらためて身の引き締まる思いがした。

午後2時から表彰式が始まった。時間得点と課題得点ともミスがあり、とても入賞は難しいと思っていたが、高齢者の部で最初の入賞チーム発表で「10位、さいたま市」と呼ばれた時には、メンバー全員で躍り上がって喜びあった。併せて発表にあった高齢者の表彰でも、高齢者賞は受賞するだろうと思っていたメンバーの中心である大久保慶子さんが、最高齢者賞を受賞できた。今回の立山町での大会がメンバー5人にとって喜びの大きい忘れがたいものになった。



チーム全員の力を合わせて10位入賞。(左端)



テニス 「さいたま市テニス協会」

いし だ た つ お

石田 達雄さん

70歳

● 参加歴：1回目

銀メダル 感動の記憶

それは、悔しくとも楽しい感動的な時間でした。

富山県大会でのさいたま市の戦績は、予選リーグ、滋賀県1-2、香川県3-0、富山県3-0、第1戦の滋賀県に負け2勝1敗となり、2位リーグへ進む事となってしまいました。「一位リーグへ進もう」を合言葉にしてきた私たちは、その瞬間、笑顔が消え、会話が止まり、そして、冷たい富山の風が体の中を吹き抜けていったのです。それは衝撃的な時間でした。

“この戦い、緊張感は半端ないって!!”

こうなりゃ2位リーグ優勝を狙うしかない、このままじゃ埼玉には帰れない。エイエイオーと円陣を組んだか定かではありませんが、誰もがそんな気持ちになっていました。

翌日開催された2位トーナメント戦では、前日の悔しさを胸に秘めていましたが、試合には穏やかな気持ちで臨むことができました。第1試合長野県を2-1、次の秋田県を2-1、そして第3試合山口県を2-0、と撃破。とうとう、決勝戦まで勝ち上がってきていました。

念願の決勝トーナメント優勝まであと1つ、対戦相手は、本大会優勝候補の1つと噂されていた神奈川県。なぜ2位リーグにいるのか不思議な思いでした。相手に不足はないと闘争心がフツフツと湧き、力の限り戦ったのを覚えています。結果は惜しくも0-2、負けてしまいましたが心残りは全くありま

せん。決勝戦、第1戦の相手は、全国ランキング4位の強者。ベテランJOPの点数は2000点を超えていました。勝つことができませんでしたがなぜか爽やかな気持ちでした。全国大会になると、こんな相手とも対戦することができ、楽しかった思い出です。

我がチームは決勝戦まで7試合を戦い、2位リーグ準優勝を手に入れました。最後は、全員が表彰式に出席し銀メダルを授与され、なかなか気持ちのいいものでした。このころになるとメンバーの緊張感も溶けて、皆の顔には笑みがこぼれていました。

“力の限りを尽くし、も～満足って感じです”

これで、大手を振ってとはいかないかもしれませんが、胸を張って帰れると皆が感じていました。満足感に満ちた笑顔は素敵です。そして、とても印象的でした。健康な毎日を過ごし、テニスの腕を磨き、またいつかこのねんりんピックに参加できたらいいなと思います。



表彰式会場にて笑顔あふれる仲間たち。(右から2人目)



健康マーじゃん 「横浜健雀」チーム

まつおか とおる

松岡 徹さん

70歳

● 参加歴：1回目

トップ3が肉薄する戦いを制して金メダルを獲得

東京駅で見送りいただいた方々に別れを告げた4人は、新幹線で富山駅へ。下車後、構内の回転寿司で昼食をとり、送迎バスで宿泊先へ移動。道中で見かけた“のぼり”が我々を温かく迎えてくれた。

横浜市選手団の結団式では17種目の横浜代表約140名が出席し、各種目のリーダーがメンバー紹介と抱負を述べた。我が横浜健雀チームリーダーの工藤氏は、皆さんからのパワーをいただくことを懇願し、結果的にはこれが功を奏した格好である。

翌日は富山県総合運動公園陸上競技場で開会式があり、翌々日の11月4日はいよいよ団体戦の本番である。会場はアルビス小杉総合体育センターで、手積み用の四角いグリーン70数卓が整然と選手一同を待っていた。1回戦開始直後、場内アナウンスで役満の第一報が流れ、「横浜市の……」と言われた瞬間、プレー中の私達は聞き耳を立てた。

「横浜市の富樫氏、四暗刻……」

……私は、鳥肌が立ったのを覚えている。

この一報で元気づけられた我々は、1回戦では調子が出なかった中氏も2回戦・3回戦ではトップを奪い、1回戦・3回戦トップの工藤氏、1回戦トップとすべてプラスの松岡、と順調だったが、3回戦終了時で宮城県が逆転。3位の愛知県も肉薄しているという状況だったが、4回戦で宮城県の一人が大きく崩れ、我々はプラスを保ち、金メダルへとつながった。結果的には、役満の富樫氏がチーム全体の50%、残りの3人が50%を稼ぐという内容で、誰一人足を引っ張ることなく横浜市代表が栄冠を勝ち取った。

団体戦は、個人戦とは違い、チーム第一という精神が働き、無理することなく固くやるのが大事であることを痛感した。

大会終了後の表彰式も終え、アトラクションでプロと交流したり、地元の方々の踊りを見学したりと、思い出に残る楽しい富山への旅行となった。連続出場は叶えられないが、健康マーじゃんをこよなく愛する団塊4雀士は今年も横浜予選に参加している。



金メダルに輝いた4人の雀士。右端で笑顔を見せる松岡さん。



神奈川県との選手と互いの健闘を讃え握手。

東海・北陸



富山県	天野光正さん		囲碁	28
	塩苅洋子さん		太極拳	29
福井県	高橋研一さん		ウォークラリー	30
	内倉輝子さん		囲碁	31
岐阜県	神谷正敏さん		剣道	32
静岡県	佐々木芳博さん		マラソン	33
	田中美子さん		ウォークラリー	34
愛知県	高木 順さん		テニス	35
三重県	佐藤慶男さん		ソフトバレーボール	36
	北川貴志さん		サッカー	37
静岡市	杉山和子さん		俳句	38



囲碁 「はなみずき」チーム

あまのみつまさ

天野光正さん

94歳

●参加歴：7回目

病を克服し、家族や仲間とともに臨んだ7回目の大会

富山県でのねりんピック初開催を知って、ぜひとも参加したいと思いました。

実は、第2回のおおいた大会に参加してから、ふくい大会・ふくおか大会・みやぎ大会などの代表になって合計7回参加しています。

ただ、大会に参加しながらもいろいろな病気、結腸がん、肺がん、3年前には脳梗塞を発症して右半身にマヒが残っており、左目は光が見える程度の身体障がい者になっております。しかし、病気を克服し続ける姿に、担当医の先生から「不死身」とほめられました。高齢で障がいがある体でも、目標を持って前向きに進んでいきたいと常々思っています。体力の衰えは感じますが、精神力ではね返してきたつもりです。

11月3日の開催日に標準をあて、テレビの囲碁番組で勉強し、週1回は碁会所でいろんな人たちと対局をして集中力を高めていきました。

妻がケガで付き添いができなかったので、娘

と孫たちに付き添ってもらい、今回も最高齢者賞と、3勝1敗の成績だったので優秀賞のメダルをいただきました。

全精力を使い果たし、大会後しばらくは碁盤も碁石も見るのがイヤになるくらいの戦いをしたので本望です。



対局中の天野さん。



信頼できるチームメンバーと。(右端)



会場まで付き添ってくれたご家族。



太極拳 「チーム・きらり」

しおかりよう こ

塩莉洋子さん

68歳

●参加歴：3回目

夫婦別チームに所属するも、切磋琢磨し優勝！

「最終得点 9.23」と審判長が点数をコールした瞬間、感動で思わず涙が出そうになるのを必死にこらえました。私たちの演武は45番目、まだ14チームが残っていましたが、高得点に満足していました。最後のチームの演武が終わり、私達の優勝が決まりました。同じく富山県代表の「チーム・アルモニー」も第3位という好成績に皆飛び上がって喜びを爆発させました。私達のチームは2014年秋に結成し、まず2016年に行われたながさき大会で7位入賞。今回、地元開催というプレッシャーの中、コーチや会員の皆様の指導のもと、練習を積み重ねてきました。しかし、動きがなかなかそろわず、曲を変更し、フォーメーションの見直しや、各々の動きの調整を図りながら練習に励みました。

「チーム・きらり」を結成してから半年後、「チーム・アルモニー」の監督兼選手には夫が選考され、夫婦別々のチームで出場することになりました。そこで練習会場を一緒にし、お互

いの練習状況を見ながら切磋琢磨したことが成果につながったと確信しています。

また、2チーム合同での合宿や、2017年と2018年の2回、上市の大岩山日石寺で滝行を体験し、大会の成功と優勝祈願をして楽しい思い出作りもできました。そしてまた、夫婦でこの大会に出場できたということで、種目別開始式で選手宣誓という大役を仰せつかり、ドキドキしながら当日の朝を迎えました。2人とも違うことなくスムーズに言えたことにほっとしています。宣誓で「共に一生懸命練習した仲間を信じ、最高の思い出として記憶に残し・・・」と言ったとおりの現実になったことに大きな幸せを感じています。

総合開会式は好天に恵まれ、立山連峰もはっきり見える青空のもと、他県からの参加者と言葉を交わし楽しく行進することができました。また、我々の太極拳の仲間がアトラクションに参加し、のびのびと演武する様子を観客席から

見て感激！！これまでの練習日には台風や雨のため、まともに練習ができなくて苦労されていたので、本番は晴天の下で演武ができ本当に良かったと思います。

大会開催に向けて様々な準備をしてくださった県・市の関係者の皆様、並びに太極拳連盟の会員一人ひとりの皆様に感謝するとともに、練習や大会で得た体験を広くお伝えしていきたいと思っています。



富山県代表の2チーム。(後列左から5人目)



ウォークラリー 「坂井市レク協 スーパーウォーカーズ」(選手代表)

たかはしけんいち

高橋 研一さん

68歳

●参加歴：2回目

やったぞ、優勝！ アテンダーの心配りに感謝

ウォークラリー競技は11月4日に立山町で開催され、福井県からは坂井市レクリエーション協会会員5名で「スーパーウォーカーズ」というチームを編成し参加しました。過去に市民向けのウォークラリーのコース設定や運営に携わった気心の知れたメンバーで、競技を熟知した健脚ばかり(?)です。「絶対に優勝するぞ!」を目標に掲げ、エントリーしました。今大会には、全国各地より選抜された44チームのエントリーがありました。

立山町は霊峰立山に抱かれた自然豊かで風光明媚な観光の町で、ウォークラリーコースはグリーンパーク吉峰の丘陵地に設定されたものでした。交流会館前での開始式では舟橋貴之大会長(町長)の歓迎の言葉や「立山権現太鼓」の力強い演奏があり、「競技頑張るぞ!」という意欲が鼓舞されました。

各チームには中学生が1名ずつアテンダー(世話係)として付き、スタートではスタッフの「頑張れ」の声援、スタート時刻のカウントダウンもあり、意識高揚の中でのスタートでした。コースは自然を満喫できるように設定され、アップダウンが大変激しく、特にコース中間での急斜面登坂は80歳以上の参加者には

少々厳しいコースではなかったかと思います。でも、アテンダーの中学生は遅れがちなメンバーに積極的に付き添ってくださり、優しさとおもてなしに感謝しています。福井県チームはそれぞれの力量を発揮し一致団結して、チェックポイントの課題やゲームも大きなミスもなごなし、所要時間2時間ほどでゴールしました。

目標は優勝でしたが「5~6位ぐらいに入れば」との思いで、閉会式の成績発表に臨みました。しかし、いつまでたっても呼ばれず半分諦めかけていたところ、最後に「優勝 福井県チーム」と呼ばれ、年甲斐もなく飛び上がって喜び、握手やハイタッチを交わしました。大会長より表彰状やトロフィーをいただき、一緒に記念撮影をした時は、目標通り優勝できた安堵

感と感激で一杯でした。さらにチームメンバーが高齢者表彰も受け、二重の喜びとなりました。

大会に参加して、たくさんのお他県の人と交流ができたことを嬉しく思うとともに、お世話いただいたアテンダーや地元のスタッフの皆様へ感謝申し上げます。今回、立山観光はできませんでしたが、もう一度ゆっくりと訪ねてみたいと思っています。



和やかな表情を見せる競技中の高橋さん。



囲碁 「越前烏鷺会」

うちくらてるこ

内倉輝子さん

68歳

●参加歴：4回目

怪我の後遺症を乗り越え、全勝で金メダルを獲得

私が囲碁を覚えたのは35歳です。

1984年12月、囲碁会館が福井市内にでき、そこで10年間勤務しました。当時は、白・黒で何が楽しいのか……と横目で見ながら。そして35歳の時に「3週間で碁が打てます」のキャッチフレーズで女性を募集。その期間、無料にも関わらず応募者は3人。私もサクラとして習う事になり、講師はオーナーで、初日は大阪府の3級のひとと2人でした。

3級の人は囲碁用語を使って打っていましたが、私は講師から「早く星目(九子)置いて打ちなさい」と言われても全くわからず……。悔しくもありその日に碁盤を購入。書店で置き碁の定石、九子から三子迄の置き碁の打ち方の本を買い、碁盤に並べて勉強しました。

ねりんピックは熊本・栃木・長崎での大会

に続き4回目の参加です。スイス方式で勝った者同士で対戦相手が決まり、4回勝てば全勝・金メダル。熊本大会で初参加し、金メダルを取ることができました。栃木・長崎大会は決勝戦で負けました。

富山の宿は、80歳の話し好きな他県の人を含めて5人部屋。8回出場で高齢者表彰されるまでは頑張るとの事。5人で碁盤を囲み、楽しい交流ができました。

朝は、同室の人とはあたりませんようにと皆が願いつつ会場へ。結果、決勝戦の相手は埼玉県の、息子さんがプロ棋士という私より若い人との対戦でした。埼玉県の囲碁ライターの方から「埼玉県は男女共に全勝優勝を狙っていますから」とプレッシャーをかけられました。握って私の白番。中盤でお互いの石が切断し攻め合い。私の読みが勝って相手が投了。全勝・金メダル。団体戦は4位と今までの参加で一番の好成績でした。

私は4月の転落事故で打撲、骨折とあちこち怪我をし、頭を打っていたために3週間はネット碁も打てませんでした。今の碁力に戻すために4カ月はかかりました。頭痛等後遺症のある中で金メダルを取れた嬉しさに熱いものがこみあげてきました。

4年前から、近所の学生、大人の合同囲碁教室で教えているボランティアの方を週2回、私も手伝っています。32年間多くの人に打ってもらったり、教えてもらったりしました。私も少しでも貢献していきたいと思います。ルールを覚えるまでは大変ですが、囲碁を始めてみませんか？ 囲碁って本当に楽しいですよ。



表彰状を手に穏やかな笑顔を見せる内倉さん。



剣道 「岐阜県選抜」チーム(監督)

かみやまさとし

神谷正敏さん

70歳

●参加歴：4回目

生涯剣道を伝え、ぎふ大会の成功・優勝を誓う

ねんりんピック富山大会に、剣道の種目で参加しました。今回で選手・監督含め4回目の出場となりました。

剣道交流大会の開始式では、越中いさみ太鼓演奏ではじまり秋田県から参加された93歳の今選手が最高齢選手として特別表彰されました。今選手は大将として出場され、「小手」を一本先取した時は、歓声が沸いたほどでした。70歳を迎えた私ですが、この試合を見て「私もこの年齢まで続けられるであろうか。いや頑張らなくては」という思いを一層強くしました。

今回の出場にあたり、ねんりん層のさらなる強化を目的に、毎月第1日曜に関市の体育館で、合同練習を行ってきました。毎回25名程の参加者があり、稽古で汗を流し、終わりにはお互いに「稽古をつけていただき、ありがとうございました」と声をかけ合うなど、親睦を深めるとともに技を磨いてきました。日頃、他の地区の剣道仲間と稽古する機会があまり多くありま

せんが、「ねんりんピックに出場したい」という共通の目的がある仲間と稽古ができることに、私のみならず皆さんも喜んでます。

また、ねんりんピックに出場した選手を対象とした年1回の宿泊を兼ねたOBの稽古会にも参加し、より多くの人と関わることで、より剣道の技を磨くことなど、新たな目標が見いだせることは確かです。

現在、県立高校で剣道の指導もしています。生徒が試合に勝つことも大事ですが、剣道を長く続けてほしいという気持ちで、基本を中心に指導するというのが私の指導方針です。自分が培ってきた技を若い皆さんに伝え、その技を生徒がうまくできたときは、うれしさがこみあげてきます。生徒の皆さんには、部活動としての一時的な剣道の修行ではなく、生涯を通じて剣道の修行を行う、いわゆる「生涯剣道」を目指して頑張ってもらいたいと願っております。

2020年には岐阜県でねんりんピックが開催されます。「ねんりんピック岐阜2020を成功させよう」「必ず優勝を」を合言葉に、ぎふ大会に少しでもお役に立ちたいと考えております。



剣道会場にて。(左端)



ねんりんピック出場に向けての強化練習。



マラソン 5km 「静岡県」チーム

さ さ き よしひろ

佐々木芳博さん

71歳

● 参加歴：1回目

入場行進の感動を胸に、仲間と1位・2位の快挙！

2018年11月3日に富山県総合運動公園陸上競技場で行われた開会式の入場行進に参加した際、私は生まれて初めて、あのような大々的な入場行進において、身が奮い立つような気持ちになりました。その時、全国からの代表が競い合う高いレベルの競技になるが、絶対に入賞するぞと心に秘めました。

私は20代の半ばから地域の駅伝競走などに参加し、そこそこの成績を収めてまいりました。しかし50代過ぎてから座骨神経痛を患い、しばらくの間思うような走りができず、ジョギングだけに専念していましたが、座骨神経痛も徐々に和らいできたので、スピードを加えた練習を再開していました。そして毎年シニア向けの静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会すこやかマラソンが開催されていることを知り、昨年エントリーしました。結果は何とか1位にこぎ着けることができましたが、決して楽なレースではありませんでした。その後、長寿財団から代表選出の通知があり、正直言って全

国レベルの大会で戦えるのかなと不安な気持ちがありました。

ねんりんピックへ向けての長寿財団での結団式、それから開会式前夜の金沢のホテルでの出陣式を終えた時には、静岡県と自分のために頑張らなければと、一層入賞への思いが強くなりました。前にも述べましたが、入場行進でのあの雰囲気と感動・感激の思いは、マラソン大会当日まで持ち込むことができ、いよいよ5kmスタート直前、同じく静岡県代表で参加した仲間と、お互いに無言の相づちを打ちスタートを切りました。前半を折り返したところで、県の仲間も折り返し手前で、私に手を振り位置を確認し合いながら、お互いに切磋琢磨のレースを展開し続け、そして見事仲間と共に1位、2位の成績を収めることができました。これも一重に県スタッフの方々並びに仲間の応援があったからこそこの快挙だと感謝しております。尚、滑川市で企画していただいたミニ観光ツアーは、富山湾クルージングを中心としたもので、

海から見た立山連峰は圧巻そのものでした。ツアーを推進した関係者の方々そしてマラソンを沿道で応援して下さった市民の皆さん方には心より感謝しています。



優勝を心に決めた入場行進。



533のゼッケンをつけてスタート！



ウォークラリー 「富士山熟女」チーム連（選手代表）

た な か よ し こ
田中美子さん 64歳 ●参加歴：2回目

別のスポーツ出身の5人がそれぞれ強みを発揮！

秋晴れの11月、盛大かつ感動的な総合開会式の後、ウォークラリーの開催地である立山町に向かいました。立山連峰の“お膝元”立山町は、陽に照らされた紅葉が、素晴らしい色彩を放って私達を迎えてくれました。

立山町でのウォークラリーの開会式は、ユーモアたっぷりの町長さんの挨拶をはじめ、郷土色豊かな芸能や子供達の歌や踊りの歓迎に次第に会場は盛り上がり、さらに驚いたことは、しずおか健康長寿財団の佐古伊康理事長さんや職員の方々のまさかの応援訪問でした。激励の言葉や手作りの横断幕に一同大感激すると共に、正直少なからずのプレッシャーを感じてしまったのも事実でした。でもそこは富士山熟女チーム！皆さんに背中を押され出発です。競技は会場であるグリーンパーク吉峰の施設内にある展示品の観察をしたり、山中の草花の名前を当てたり、ゲームを楽しんだり、盛りだくさんの

内容。またコースは階段や坂道にどのチームも四苦八苦。少し厳しかったのではとの声もあがりました。

私達5人は、3年前のやまぐち大会でそれぞれ別のスポーツを通じて結成された仲間です。ウォークラリーという色々な分野の知識や体力を必要とされる競技ですが、5人の得手不得手な部分を活かし助け合うことで勝ち取った今回の準優勝だったと思います。競技終了後は、各県の方々と互いに健闘を称え合い、和やかに交流することができました。その夜は旅館の素晴らしい温泉とご馳走に美酒を添えて祝杯を挙げたのはいうまでもありません。

翌日、富山観光を楽しみ、3泊4日のねんりんピックを終えました。ウォークラリーだけでなく、私達シニアがもっともっと元気いっぱい多方面で活躍できるよう、これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。



女性5人のチーム。結成は3年前。（右から2人目）



チームワークで目指せ、上位入賞！（右端）



テニス 「スマイル、アイチ」チーム

たかぎ じゅん

高木 順さん

71歳

●参加歴：2回目

愛知県代表テニスチーム、3度目の優勝！

富山県は、以前から訪れたいと思っていた場所でした。理由は、県庁所在地の間近で3千メートル級の山から水深千メートルを越す湾に急激に落ち込む風景が見られること。さらに、中央から離れていながら、数社のトップ企業を育んだ地域であるからです。

11月2日、名古屋駅前をバスで出発。バスの旅は休憩も十分とっていただき、快適でした。この日の宿泊地は水見市のホテル。その夜の夕食・激励会の挨拶で、わがチームは過去に優勝を経験したメンバーが3名（内2名は参加した大会の結果がすべて優勝）おり、今回も優勝しますと宣言しました。次の日の総合開会式では、よく練習をされたであろう歓迎アトラクションに感激し、また合同開会式では、「おわら風の盆」も身近で見させていただきました。この日は早朝からの行動日でしたが、くつろぐことができました。

11月4日は予選リーグ当日、会場は岩瀬スポーツ公園テニスコート。優勝するためには、ここを1位通過することが必須です。予選は、1ブロック4チームのリーグ戦で、18ブロックの規模。私は70歳男子のダブルスで参加していましたので、常に先陣を切り、この日は全勝で終えることができました。途中、時雨に見舞われて中断もありましたが、チームとしても1位通過を果たすことができました。

明るる5日はいよいよ決勝トーナメント。予めドローが発表されていたので、1回戦の相手は名古屋市チー

ムと分かっていました。同じ地域ということもあり顔見知りも多く、接戦となることは覚悟していました。チーム内ではここを勝ち抜けば優勝が見えてくると、励ましあっていました。いざ対戦が始まると先鋒の私たちが敗戦。しかし、60歳女子ダブルスが健闘、続く60歳男子ダブルスの快勝を引き出してくれました。2回戦では3ペアともスコア4-0、相手チームからは「血も涙もないな」と言われてしまいました。その後は順調に勝ち進み、念願の栄冠を手にはしましたが、内心は、激励会の挨拶が大言壮語とならずに済み、ほっとしています。勝因を振り返りますと、天候に恵まれ短縮ゲームとならず実力が発揮できたことと、チームがいろいろな面でまとまっていたことに尽きると思います。最後に、運営に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げるとともに、今後の大会のますますのご発展をお祈り申し上げます。



試合終了後に笑顔を見せる選手たち。(前列右から2人目)



ソフトバレーボール 「四日市クラブ」(監督兼選手)

さとうよしお
佐藤慶男さん 70歳 ●参加歴：6回目

ねんりんピックを励みに目指せ、生涯現役！

地域の交流スポーツ教室からソフトバレーボールをスタートし、生涯スポーツとして汗を流して楽しむことを目的に集まった仲間は「試合に勝ちたい」「市や県の大会で優勝したい」と次第に大きな野望を持つようになりました。しかしその野望もむなしく、何回チャレンジしても県の壁は厚く高いものでした。どうしたら勝てるのか。皆がやらない、できないことを考えないと点をとれない。基本的には、3回で返球、それを2回のツー攻撃で左右、後方からのトスで返球、強弱の攻撃、というのを練習や試合を通して繰り返し、繰り返し実践してきました。その結果、少しずつ県の上位に近づき、時々優勝することができるようになりました。ねんりんピックを知ったのはその頃です。60歳以上が5名で三重県の代表になった時は夢のようでした。

初参加の熊本での大会から、高知、山口、長

崎、秋田、富山とたくさんのソフトバレーボール仲間が県内外でできました。時には共に食事やお酒を楽しみ、年間を通して楽しい試合、交流をさせてもらっています。今は仲間も増え60歳、70歳で2チーム編成が可能となり、和気あいあいとレギュラーを目指し日々競争しています。今できるから先がある、今を大事にして生涯スポーツを楽しむ、ねんりんピック参加は私達の大事な目標です。ソフトバレーボールをはじめから25年、30歳から80歳の25名で日々練習、試合に励んでいます。今後もねんりんピックにチャレンジしていきます。今回の富山黒部交流大会の食事やお酒、紅葉全てに満足し、さらには、大会関係者皆様のおもてなし、ありがとうございました。最後に、三重県選手団役員の皆様には大変お世話になりました。四日市クラブもさらに交流を深め生涯スポーツを楽しんでいきます。お疲れ様でした。



富山のちびっこ応援団と選手たち。(後列右から2番目)

ブロック準優勝、おめでとう！





サッカー 「四日市フットボールクラブ」(監督兼選手)

きたがわかし

北川貴志さん

67歳

●参加歴：3回目

サッカーを楽しみ、文化に触れ、最高の思い出に

四日市フットボールクラブは、今年創立40周年を迎えるシニアサッカークラブで、40歳代から80歳代まで約100名のメンバーが、生涯現役を目指して練習し、県内外での各種大会へ参加するなど幅広く活動しています。

今回の「ねんりんピック富山2018」には60歳代のメンバー16名で2年ぶりに参加させていただきました。

11月3日の開会式では、総勢1万人を超える全国からの選手団の入場行進と、富山の方々の素晴らしいアトラクションにチーム全員が感動しました。開会式後のサッカー、テニス、ボウリング、ソフトボール競技の合同開始式では、高齢参加者の特別表彰で90歳のサッカー選手が登壇され、その軽やかな身のこなしに我々もまだまだ頑張らねばと、勇気をもらいました。その後のアトラクションでは「おわら風の盆」の哀調ある唄と優雅な踊りが披露され、特にしなやかな手の動きに魅了されました。11月3日、

4日の宿泊先は偶然にもおわら風の盆が開催される富山市八尾町の町中の旅館で、周辺の落ち着いた風情ある街並みを散策し、ぜひ9月初旬の開催時に訪れてみたいと思いました。

11月4日、5日に富山南総合公園で行われたサッカー競技は、4チームずつのブロックに分かれリーグ戦が行われました。対戦チームは茨城県代表、広島県代表、熊本市代表と強豪ぞろいで厳しい試合が続きましたが、幸いにも3戦全勝でブロック優勝ができました。

試合会場のグラウンドは天然芝が良く整備され、会場の運営も審判をはじめスタッフの方の配慮が行き届いていて、気持ちよくサッカーを楽しめました。また、昼食会場で地元の方々から暖かい鍋料理をふるまっていた際には、楽しく会話ができ交流を深めることができました。

「ねんりんピック富山2018」での3日間はサッカーを存分に楽しみ、他チームのメンバー、地元の方と交流でき、地域の文化にもふれた素晴らしい経験になりました。本当に大会関係者の皆様には深く感謝します。



黄色が鮮やかな四日市FCチーム。(後列右から2人目)



優勝を果たし笑顔。賞状を持つ北川さん。



俳句

すぎやまかずこ

杉山和子さん

80歳

●参加歴：1回目

富山の恵みを堪能し、吟行地は黒部へ

80歳にしてねんりんピック富山の全国大会に参加しないかと声をかけていただき、わが娘の後押しもあって、また姑と夫の30年近い介護も終り、参加することを決めた。静岡市からは100名余りの参加で、私は俳句部門にて1名の参加である。事務局の方々の緻密な計画にもとづき数多な関係書類、冊子等をいただき、結団式にも出席し、富山へと思いを馳せた。

竹千代君像を後に静岡駅から富山行きの電車にて出発した。乗り換えの激しい旅ではあるがこれも高齢者の試練かとも思う。「健康と福祉の祭典」とは、ある意味強行軍にも耐えることなのかと文系の選手たちは感じていたと思う。スポーツ系の選手は体力があるから大丈夫ではないかと、すこし侘しい思いが頭をよぎる。だが富山で降車すると大勢の方々が歓声にて静岡一行を迎え入れてくれ、新幹線の長旅も癒され心温まる思い。また、私が出迎え人とハイタッチした姿が夕方6時のニュースに映し出され、氷見旅館の部屋仲間とテレビを見たのは記念の一つであった。

静岡一行は海の神域とも言われる氷見温泉郷を宿とし、懇親会が開かれ、カワハギ鍋や鰯刺身に舌鼓を打ちながら楽しく会話ができ、お互いのチームの健闘を祈っていたことが印象的だった。翌日のねんりんピック総合開会式に向けての挨拶に盛り上がり、盛大のうちに宴は終了であった。

快晴に恵まれ総合開会式、皆汗を流しての大会参加行進となった。美しい立山連峰を眺めつつ9列をなしての行進である。そこでわが拙い句を一句。

「立山連峰空へ刻みし十一月 和子」

会場の音楽隊、オリンピックさながらの聖火リレーの走者、そして行き届いた運営もまた素晴らしかった。多彩なアトラクションを見物しながら各選手達はお弁当を開ける。中心に鱈寿司、まわりには名物の蛍烏賊、白海老のかき揚げ、鰯の刺身が盛られ、上に掛けられた紙絵も素晴らしく、富山の美食弁当を満喫した。

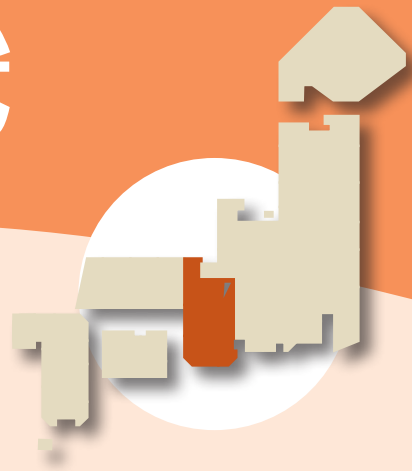
翌日、黒部市宇奈月国際会館「セレネ」にて俳句交流大会が開かれた。吟行地は宇奈月温泉街・宇奈月ダム・尾の沼体験交流施設とちの湯・松桜閣とすべて現地の方が案内して下さったので大変助かり、少々時間はないものの皆作句に励んでいたようだ。





最後に静岡事務局・富山事務局の方々の対応に心からお礼を申し上げ、ペンを閉じます。



試合会場前で記念撮影。

近畿



京都府	藤井 貢さん		サッカー	40
兵庫県	佐川純雄さん		グラウンド・ゴルフ	41
奈良県	浜田健治さん		水泳	42
大阪市	古跡孝和さん		弓道	43



サッカー 「京都府」チーム

ふじい みつぐ
藤井 貢さん

60歳

● 参加歴：1回目

劇的ゴールでつかんだ優勝は、生涯の思い出に！

私は初めてねりんピックに参加させていただきました。初日、京都府での結団式を経て、一路北陸へ。途中の石川県で1泊、その夜は京都府選手団約160名が一堂に会しての大懇親会に。

翌日6時起きで総合開会式会場を目指します。いざ会場に着くと、そこは「人・人・人」。入場行進の隊列に並べば、地元の子供達「富山きときと夢 KIDS」による歓迎行事。行進までの待ち時間を退屈することなく過ごせる工夫がされていました。そして、いよいよ入場行進。とても大きなメインスタンド前を行進していると、国体選手にでもなったような気分でした。その後は、スタンドで地元の食材をふんだんに使った弁当を食べながら、地域色豊かなメインアトラクションを楽しみました。

3日目、いよいよ競技が始まりました。京都府は、北海道、群馬県、徳島県との4チームで構成するBブロックに。初戦の徳島戦は一進一退の攻防が続き、1対1で迎えた試合終了間際、相手ゴール前でパスを繋いで決勝点を決めた直後にホイッスルが鳴り、幸先良いスタートを切りました。

2戦目の北海道戦は、直接フリーキックで先行するものの、一時相手ベースになったところでパスを回され同点に追いつかれるという展開に。後半はお互いが危険なシーンを凌ぎ切ってそのまま引き分けて終了。

4日目の最終戦・群馬戦は、前半互いにチャンスを生かせず無得点。後半PKを与え先制を許したが、選手全員が諦めることなく、プレスをかけ続けた結果、終了2分

前に相手のゴール前でのミスを逃さず同点に追いついた。その結果、我がチームは、二度の終了間際の劇的ゴールで1勝2分の勝点5となり、実力伯仲で接戦ばかりのBブロックで優勝を飾ることができました。中学校からのサッカー歴48年間で、こんなに劇的な幕切れの連続で優勝をつかみ取った大会は初めてかもしれません。

京都府チームは、登録選手16名の平均年齢は66歳と少々高めであるものの、勝利を目指す一体感はずば抜けていたと思います。それは、5月の選考会を含めた5回の強化練習と懇親会を経て本番に臨んだことや、大会中連夜の「作戦会議と称した小宴会」により培われ、それが今回のブロック優勝に繋がったものと確信しています。

今大会の開催にご尽力いただいた皆様、そして温かく送り出していただいた職場の皆様から感謝申し上げます。



試合当日。宿泊施設の前で笑顔を見せる京都府チーム。(2列目左端)



グラウンド・ゴルフ 「竜野らくちんクラブ」(選手代表)

さがわすみ お

佐川純雄さん

72歳

●参加歴：1回目

感動、感動、また感動で、10歳は若返った!?

グラウンド・ゴルフのチーム発足から10余年、途中でチーム名も“らくちんクラブ”から地域の名前を付け加え“竜野らくちんクラブ”と改称、兵庫県の大会でも時おり優勝や入賞もありましたが、さらに今回のねんりんピック出場で県内グラウンド・ゴルフ愛好者の方々にも多少なりとも知っていただけるようになりました。出場が決まった感動もありましたが、今以上のマナーが大事と思わせる瞬間でもありました。

ねんりんピック最初の日の総合開会式では2時間前から集合、打ち合わせなどがあり、兵庫県選手団行進のサポートをしていただく小学生は、応援メッセージの入った手作り横断幕や兵庫県について詳しく調べたこと(姫路城など)を発表してくれました。それが最初の感動です。チームの仲間が作ってくれた“赤とんぼ”ブローチの持ち合わせがあり、お礼にお渡ししました。「兵庫県たつの市から来ました。『赤とんぼ』三木露風の里がたつの市です」の紹介で理解していただき、ここでも交流ができました。

いよいよ競技場内入場、200名以上の楽団演奏で行進、いろんな演出の中で1万人の大イベントを一員として担っている実感が次の感動です。昨年の国体出場では公開競技でもあり、当然ながら総合開会式には出られませんでした。今回はテレビで見る国体総合開会式の気分でした。

2日目から高岡市でのグラウンド・ゴルフ交流大会が立派な運動公園で始まり、ここでも歓迎アトラクションや『おもてなし』と称し、郷土料理等もふるまっていただき、とてもリラックスできたように思います。その甲斐あって兵

庫県竜野らくちんクラブからも仲間の1人が3位入賞となりました。途中からもスコアはいい線でしたのであとは発表待ちでしたが、なんといっても3位は快挙!大きな感動となりました。

いろんな「感動」があった中で10歳(?)若返った4日間でした。次のねんりんピック紀の国わかやま2019はすでに他チームからの出場が決まっていますが、次のチャンスにまたチャレンジしたいと思っています。

今回のねんりんピック出場に際してお世話いただいた方々、尽力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。「ねんりんピック」感動をありがとう!

アブローチショット!



開会式終了後、スタンドで。(最前列)



水泳 自由形 25m・50m 「なら」チーム

はまだけんじ

浜田健治さん

80歳

●参加歴：1回目

猛練習を重ね銀メダル！ これからも泳ぎ続けたい

中学校から水泳を始め、まあまあの成績、高校では学校にプールがなくあちこちで借りて泳いでいましたが、何とか大阪府でベスト10に入り、それから65歳で定年を迎えるまで水泳とは無縁の生活でした。

時間ができたのでいざスポーツクラブへ。水泳には自信があると、25mを全力で泳いだら死ぬほどしんどかったのを覚えています。それから猛練習を重ね、一度は倒れて気がついたら救急車が来ていたこともありました。

練習成果が出たのは、翌年奈良マスターズ水泳大会での上位入賞でした。それから毎年奈良マスターズ大会や奈良県大会で上位入賞が続きました。ねんりんピックは聞いたことがありましたが、たまたま県民だよりで、ならシニア元氣フェスタの水泳大会を知りエントリーしました。幸いにも代表に選ばれ、今大会に参加させていただくことになり、何とかベスト10には入りたいとの思いで臨みました。

11月2日、奈良県選手団は京都駅に集合し一路富山へ。前泊地の山代温泉の大広間で各競技チームの決意表明が力強く行われました。翌朝バスで開会式場へ。広大な陸上競技場に全国から約1万人が参集。感動したのは100人を超える高校生の長時間にわたるプラスバンドの演奏でした。開会式終了後、早速試合会場へ直行。脱衣室やプールのレイアウトを確認し、少しウォーミングアップをして選手仲間とホテルへ。

翌日は4泳法共50mの競技。最初に背泳いで奈良県が早速銅メダルを獲得し、スポーツ庁長官にメダルをかけてもらい感激の様子でした。続く平泳ぎでは日本新記録を出した実力で金メダルを獲得。次に私の番になり、自由形を全力で泳いで何とか2位に食い込み、銀メダルを取ることができました。

翌5日は最初に25m自由形が行われ、昨日の雪辱と意気込んで臨みましたが、またもや僅差で銀メダルでした。他のメンバーはまたも平泳ぎで“さすが”の金メダルを獲得。そして僅かの差でメダルに届きませんでした。チーム全員大健闘でした。良い仲間恵まれ、和気あいあいと意義ある大会でした。

奈良県社会福祉協議会や大会関係者の皆様、大変お世話になりありがとうございました。一生の楽しい思い出となりました。これからも健康に注意して水泳を続けていきたいと思っています。



表彰台で晴れやかな表情を見せる浜田さん。(左)



副知事を表敬訪問。



弓道 「大阪市」チーム

こせきたかかず

古跡孝和さん

67歳

●参加歴：1回目

40数年ぶりの競技。一本差で惜しくも優秀賞

初めてのねんりんピックは、2018年4月1日に住吉武道館弓道場で開催された全国健康福祉大会選手決定射会から始まりました。大阪市の選手選考は、最低人数および条件のクリアが危うい状態で、私はチームを成立させるための緊急参戦でした。条件は、「選手5人のうち1人以上は、70歳以上（男女問わず）が常時出場、競技するものとする」、また「5人のうち1人以上は、女性が常時出場する」。常時出場する女性、70歳以上の両条件を満たす小川先生（住吉弓友会）がキーウーマンとなり、小林先生、及川先生と私（大阪高津弓友会）と堺市初芝を練習拠点とされている植野さん（堺弓道協会）の5名に決定しました。

選手決定射会から、本戦は半年も先で、怪我や病気で一人でも欠ければ大阪市チームは成立しません。まさに綱渡りでの参加となりました。

11月2日に新大阪駅の団体集合場所に弓道部門のメンバー全員が無事そろい、バスで富山に向けて出発しました。3日の開会式では、大阪市チームの旗手と紹介アナウンスを弓道部門が受け持ち、私が旗手、紹介を及川先生で務めました。減多に経験できない大役をしっかりと果たしました。開会式場から射水市に移動し、夕刻に開始式に参加しました。

4日より競技が開始し、予選1回戦は半矢で上位の20チーム位のまざまざのスタートでした。5日は、予選2回戦は、初めの一手が8中で調子に乗り15中を叩き出し、予選トップ通過でした。決勝トーナメントは抽選の結

果、1回戦最終の試合でした。控えでは、みんな落ち着いてリラックスしているようでしたが、射場に入り、「起立」で本座に進むところから予選とは異なり、動作がそろわずバタバタしたまま行射に入り、まとまりに欠けた試合となり、1本差で敗れ優秀賞に終わりました。

私自身は、大学時代の試合以来、40数年ぶりの5人立ち4ツ矢の競技をさせていただき、思った以上に上手いきませんでした。楽しい時間を過ごさせていただきました。チームの皆さんありがとうございました。

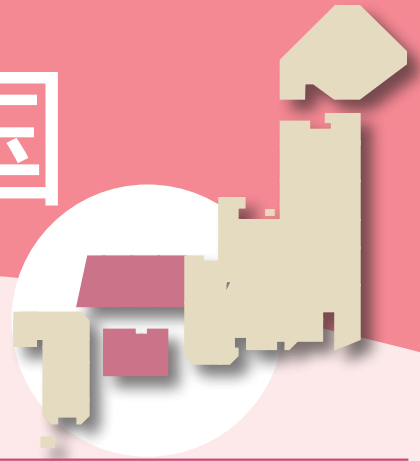
大会では、日曜日に応援に来てくれた旧友や他チームの懐かしい方と楽しい時間を過ごせました。機会があればまた参加したいと思っています。

富山県の職員、射水市の職員、弓道連盟の方およびボランティアの方のご支援、協力および接待に深く感謝いたします。



5人立ち4ツ矢で力を合わせたチームメンバー。(中央)

中国・四国



鳥取県	岡田清次さん		ソフトボール	46
	熊田熙代さん		弓道	47
島根県	田城真理子さん		ペタンク	48
	佐藤 豊さん		カローリング	49
岡山県	葭野浩道さん		カローリング	50
	永守修一さん		ペタンク	51
山口県	西嶋真彌さん		ソフトテニス	52
	河田邦代さん		ソフトバレーボール	53
徳島県	藤森 勲さん		カローリング	54
	新開 均さん		ソフトテニス	55
香川県	久保 隆さん		ソフトボール	56
	大西芳樹さん		将棋	57
高知県	小野山征男さん		俳句	58
岡山市	中村郁代さん		ソフトテニス	59
広島市	小村 堯さん		水泳	60



ソフトボール 「シニア伯耆クラブ」チーム

おかだせいじ

岡田清次さん

67歳

●参加歴：3回目

力強い声援を背に劇的な逆転サヨナラ勝ち

私たちのシニア伯耆クラブは、「とやま大会」ソフトボール競技の最高齢者表彰を受けられた河津選手（86歳）をはじめ、米子市を中心とした県西部地域のソフトボール愛好者の集まりで、「健康で楽しく」をモットーに1996年に結成されたチームです。ソフトボールの各種大会のなかでも、シニア世代が健康を維持し交流を深めていく、わんりんピックの出場を第一目標として、週1～2回秀峰大山の麓で、伸び伸びと楽しく練習を行っています。

今回の「とやま大会」には、県予選会の因伯シルバー大会が雨天中止となり、抽選の結果、幸運にも出場することができました。

試合結果は、競技1日目の交流試合は1回戦で敗退しましたが、翌日の交歓試合では、米子市出身で富山市在住のご家族や、鳥取県社会福祉協議会女子職員の皆さんの声援に後押しされて、選手一同奮起し劇的な逆転サヨナラ勝ち（5-4）となり、関係者も選手も大いに盛り上がりました。また、一昨年出場の「ながさき大会」でも、県社協の皆さんの応援に勇気付けられ、交流試合1回戦に逆転勝ちをしていましたので、これから県社協の皆さんに応援していただいた時には、試合に勝てるというジンクスができそうです。



守備位置につく
岡田さん。

総合開会式では、地元小学生との交流、式典、アトラクション等と大歓迎していただきました。そのなかでも特に、合同開始式のおわら風の盆（越中おわら）の唄と踊り、胡弓の響きは哀調があっても素晴らしかったです。また、宿泊先の近くにある富山県立鳥獣保護センターへ見学に行った際、センターの職員さんから「鳥取ですか!」と声を掛けていただき、「自分は学生時代に鳥取市に住んでいましたので、大変懐かしいです」と言われて、センター施設のことなどいろいろと説明を受けた、嬉しい出会いもありました。

4年後には、「とっとり大会」の開催が決まっていますので、シニア伯耆クラブの選手一同、健康に気をつけてこれからもソフトボールに係わり、選手あるいはボランティア等として地域から大会を盛り上げていきたいと思っています。

最後に「とやま大会」の大会関係者、ボランティア等の皆様、鳥取県社会福祉協議会の皆様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



「健康で楽しく」がモットーのチーム。（前列右から3人目）



弓道 「鳥取県弓道」チーム

くまだきよ

熊田 熙代さん

77歳

●参加歴：1回目

60年前に見た北アルプスとの再会

秋晴れの空の下、美しい北アルプス連峰を眺めながら「ねりんピック富山2018」の開会式が開催されました。今回が初めての参加ですが、60年前「富山国体」で見た北アルプスの美しさが目に焼き付いており、とても楽しみにしておりました。

この度は弓道で参加させていただいたのですが、弓道経験は浅く、ましてや競技会等は無縁のものと思い他人事のように聞いていました。70歳を過ぎてから何か老後のスポーツをと興味、興味ある弓道教室に通い始めました。弓具を見たことも触ったこともなかったのですが、何回か通っているうちに楽しくなり現在に至っております。チームメンバーに決まり、目標もできたので、週に2、3回は練習していましたが、一朝一夕で成果は出ず、気持ちだけが独り歩きしていました。熱心にご指導くださる先生方やチームメンバーに支えられ、出場させていただき本当に感謝しております。

開会式当日は真夏の様な日差しでしたが、次々と繰り広げられる集団演技に見惚れ拍手を送り、かつての「鳥取国体」で演技者の一人として「傘踊り」を踊ったことを思い出し、年月の流れを感じました。また場外では、演技を終えられた方々の温かい笑顔に見送られ、挨拶を交わしたこともとても良い思い出です。

射水市での前夜祭では、市長様はじめ来賓の方々の強い意志と実行力に感銘を受け、ささや

かな御礼の気持ちで初めての「ふるさと納税」をさせていただきました。学生時代の「富山国体」で富山駅に着いた私達を、真っ白の割烹着姿のご婦人方がお出迎えくださったことは今でも覚えています。

残念ながら、競技での鳥取県チームは予選落ちしましたが、この半年間、ご指導いただいた諸先生方やメンバーの方と、一つの目標に向かって練習してまいりましたので、悔いはなく楽しい思い出ばかりです。4年先は鳥取県で開催予定とお聞きしています。富山と鳥取は日本海側に位置し、類似点も多くあるように感じます。成功を願っていますが、私は80歳を超えてしまいます。果たしてお手伝いできるか今から心配していますが、次の目標に向かって一つでも多くの楽しい思い出を作りたいと思います。お世話していただいた県の皆様、ご指導いただいた諸先生、そして仲良くお付き合いくださったチームメンバーに、心より感謝しお礼申し上げます。



70過ぎて始めた弓道。支えてくれる仲間と。(右から3人目)



ペタンク 「マリン浜田」チーム(監督兼選手)

たしろ まりこ
田城 真理子さん 63歳 ●参加歴：1回目

手術を乗り越え出合った生涯スポーツ「ペタンク」

県予選に勝った時は、信じられませんでした。激励会では身が引き締まる思いでした。浜田市から「マリン浜田」として、湯浅彦六・良子夫妻と私は、初めてのねんりんピック参加でした。彦六さんは高齢者としても受賞されました。ペタンクは90歳以上になってもできるスポーツです。

富山県は島根県からは遠かったです。3日の開会式は富山県総合運動公園陸上競技場で行われ、大会テーマは「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」。全国から約1万人が集まり、入場行進では、これがねんりんピックの入場行進なんだと興奮し、多彩な演出で歓迎していただきました。秋晴れでとても気持ちよかったです。

ペタンク会場は南砺市でした。南砺市は世界遺産である五箇山合掌造りの集落をはじめ、純朴で薫り高い歴史文化が息づくまちで、小京都、豊かな自然にも恵まれ、600有余年の歴史を誇る門前町、木彫刻の音が響く信仰と木彫りの里「井波」、版画家・棟方志功が7年あまりを過ごした「福光」とありました。歴史のある街で、初めてのねんりんピックに参加し、生涯の思い出ができました。

ペタンクはどしゃぶりの雨でも試合をしますが、11月というのに暖かく、ワクワクしました。1位グループで決勝戦に上がりました。もし時間制限がなければ、3位、もしくは、優勝できたかもしれません。選手の皆さんとの交流もありました。

そもそもペタンクを始めたきっかけは両膝、特に右膝は2回におよぶ

手術でした。何か運動をしなければこのままでは膝が衰えてしまうと思ったのがきっかけでした。グラウンド・ゴルフは年齢が若すぎてできませんでした。ペタンクは、フランス発祥で、子どもから高齢者までできるスポーツですが、はじめにペタンクと聞いても、「えっ、何?」というくらい何も知りませんでした。しかし実際にしてみると、高度な技術や戦術を駆使し、頭を使うスポーツで、高い集中力と忍耐力が求められます。そしてマナーとルールも守ります。子どもから高齢者までできるのは、魅力の一つではないかと思います。私みたいに手術をしても走ることもなく、歩く距離も少なく負担も軽くて、生涯できるスポーツだと思っています。富山県、南砺市、大会関係の皆様、駅までのお見送りなどお世話になり心よりありがとうございました。



やったね、ベスト8! 県知事にも報告しました。(中央)



カローリング 「カローリング島根」チーム

さとう ゆたか

佐藤 豊さん

85歳

● 参加歴：1回目

県選手団最高齢で出場。健康であることに感謝

ねんりんピックで初めて競技種目に採用されたカローリング。島根県代表3名の1人として、11月2日午前7時に出雲市駅を発ち、バスにて富山に向かう。夕方富山市のホテルに到着。10時間余りの旅であったが、皆が疲れもなく18時からの県選手団123名の結団式に参加。旅の疲れを癒してくれるお食事、親睦と交流の楽しいひととき。優勝を目指して「ガンバロー」と約束し各種競技会場近くのホテルに向かう。翌日、車窓から立山連峰のすばらしい雪景色を見ながら開会式会場の富山県総合運動公園陸上競技場へ到着である。

今回のとやま大会は、過去最多の27種目に1万人が集まり、各県の選手団もそろいのユニフォームにて清々しい。しかし、人の波、波である。地元の小学生、中学生と歓迎の会話をする約1時間も、瞬く間に過ぎる。高校1年生のプラカーダーの先導で団旗を先頭に47番目の入場行進はすばらしく、立派な陸上競技場にもただ驚くばかりである。炬火の演出も目を見張る見事なものであった。

開会式終了後のアトラクションは富山に生まれた生命が躍動感あふれる創作舞踊で表現され、全国から集った選手一同おもてなしと日頃の努力に感謝、感激した。カローリング会場の開会式では入善町の東狐獅子舞保存会有志のすばらしい演技に酔いしれた。

私がカローリングを始めたのは70歳を過ぎてからである。適度な

緊張感があること、特に体力は関係ないこと、室内競技のため子どもから高齢者まで気軽に競技ができることから現在も続け、仲間との交流を唯一の楽しみにしています。健康でねんりんピックに参加できたことに感謝、感謝です。多数の参加者がいるなか島根県選手団では私が最高齢者でした。カローリングの部で高齢者賞を壇上にて受賞し、身に余る光栄と感無量でした。参加の証にいただいた賞状と楯を一生の宝として心の支えに末永く飾り、健康を維持することを心がけ、毎日を大切に感謝の気持ちを忘れずに過ごしたく思っています。

後日、とやま大会の報告のため、4部門、7名のうちの1人に選ばれて県知事を表敬訪問する榮に浴し、県知事が入賞、受賞の喜びに熱心に耳を傾けてくださるなんて夢心地、雲上の幸せを感じたひと時でした。ありがとうございました。



平均年齢80歳の高齢チーム。勝敗より健康づくり。(中央)



カローリング 「瀬戸大橋」チーム (監督兼選手)

よしのひろみち

葭野浩道さん

73歳

●参加歴：1回目

新種目に採用され、愛好者の夢広がる

「NPO法人スポーツライフ‘91天城」は1991年に設立されました。設立時より英語名をSPORTとして「S」を付けていません。これはスポーツ本来の語源に基づく活動を目的としたからです。(日本体育協会も今年4月より名称を日本スポーツ協会と変更し、英語表記よりSを取りました)。クラブ員は50名程度で約40種目のニュースポーツ用具を所有しています。

カローリングは12年前に3名が高根県大会に参加して指導員資格を取得しました。この3名が中心となり県内の普及に努めてきました。11年前には岡山県協会も設立して、日本協会より貸与された4ゲーム分の用具を有効に活用しクラブ育成に努めています。

ねんりんピック富山2018の選考会は5月に開催し、当クラブが上位を独占しました。1チームのみの参加ならばベストメンバーで臨めますが、3チームの出場となれば、クラブの「和」「理念」を重視する必要があります。そこで、過去の対外成績やクラブの将来も考慮しながら、ベテランと1年未満の新人をミックスしたチーム

を編成しました。

心配なのは岡山市枠で出場する1チームです。このチームは毎月2回わがクラブより用具を持参して指導に当たっているクラブの人たちです。しかし、心配は無用でした。岡山県勢の成績は14位から17位にきれいに並びました。しかも14位は岡山市のチームです。17位のチームは2勝0敗、他は1勝1敗でした。この奇跡的成績は岡山県協会の理事長として非常に満足できるものでした。

県チームは宿舎が分散したため、夜の食事は香川県・京都府のチームと一緒にしました。お互い交流大会に参加していますので、和気あいあいと酒を酌み交わしました。1チームは岡山市と同宿でこちらも楽しい食事会でした。

試合の翌日は県市の14名が高岡駅に集まり、私が希望していた瑞龍寺に参拝。昼食は駅近くの居酒屋で大いに盛り上がりました。その後は高岡の街を散策です。途中でダウンした5名は駅で落ち合うことになって、風情豊かな街並みを堪能しました。そのため電車に乗り遅れるハプ

ニングもありました。帰りの車内でもわいわいがやがやと一杯やりながら帰りました。

ねんりんピックにカローリングが採用され、全国の愛好者の夢が大きく広がりました。



交流大会会場で3チーム合同撮影。(後列右端)



瑞龍寺にて。国宝建造物巡りが趣味の葭野さん。(右端)



ペタンク 「岡山県瀬戸内クラブ」チーム（監督兼選手）

ながもりしゅういち

永守修一さん

69歳

● 参加歴：1回目

悲願の初出場 ― 仲間とともに勝ち取った準優勝

念願が叶っての「ねんりんピック」出場。今回は私にとって特別な思いがあります。過去8年間、県の子選会では毎年のようにあと一歩のところまで、ことごとく出場を逃し続けてきたからです。

また、不幸なことに昨年の夏から関節リウマチを患い投球が思うようにできなくなり、このままでは一生出場できないのではないかと沈んだ気持ちのまま予選会に臨みました。ところが、そんな不安を払拭するようにチームメートの活躍で見事代表に決まり、喜びもひとしおでした。

富山県総合運動公園陸上競技場での開会式は絶好の天気にも恵まれ、スタンド後方には雄大な立山連峰がそびえ立ち、約1万人の選手団を歓迎しているかのようであらためて出場できた喜びがわいてきました。

開会式終了後、我々ペタンクの選手団は7台のバスに分乗し、試合会場のある南砺市へ向かい、開始式に出席しました。アトラクションでは地元の福野小学校スティールドラムクラブによる見事な演奏で歓迎を受けました。開始式終

了後、再びバスでそれぞれの宿泊場所へ分散し、我々は日暮れの中40分かけて「五箇山荘」に到着。温泉に入り疲れを癒しました。翌朝、試合会場へ向かう途中、世界遺産に登録されている合掌造りの集落の一つである菅沼地区を紅葉の山あいの中に見ることができ、感銘を受けました。

初日は、4チームごとのブロックに分かれ予選リーグを行いました。各ブロックの2位までが次の日の決勝トーナメントに進出できるため、何としても予選通過を果たしたいとの強い思いで試合に臨んだ結果、3勝できました。

勝負に拘ったのには理由があります。4月に行われた予選会で大活躍してくれたチームメートの女性がその後脳手術を受け、今回出場できなくなりました。彼女の分までという全員の気持ちが好結果につながり、次の日の決勝トーナメントでも1戦1戦順調に勝ち進み、気がつけば決勝戦まで到達していました。山梨県チームとの対戦は力及ばず惜しくも破れ、準優勝となりましたが、満足のいく成績を残すことができました。

今回初めて出場し、夢と感動を与えてくれた「ねんりんピック」。これからもチャンスがあれば何度でも出場したいと思います。最後になり

ましたが、富山県の皆様には温かいおもてなしをいただき、深く感謝申し上げます。また、いろいろとお世話になった県社協の皆様にも心からお礼申し上げます。



勝ちに拘り、準優勝の快挙！（右端）



表彰式。（左端）



ソフトテニス 「維新 151」 チーム (監督兼選手)

にしじましん や

西嶋 眞彌 さん

71 歳

● 参加歴：2 回目

パートナーと共に、今プレーできる喜び

晩秋の11月3日、平成で最後となるねんりんピックの総合開会式が富山県総合運動公園陸上競技場にて開かれ、私は山口県選手団の旗手として参加し、誇らしい1日を体験しました。天気は快晴。遠くには新雪を冠した立山連峰が映え、全国から参集したおよそ1万数千人の選手を温かく迎えてくれました。

翌4日と5日は、高岡スポーツコアでのソフトテニス交流大会に監督兼選手として出場しました。ソフトテニスは学生時代に夢中になったスポーツでもあり、還暦を過ぎ時間的にも余裕もできた2008年に、懐かしさや健康維持の目的もあって、再びラケットを握りました。それからの10年間は週2回数時間の練習に加え、県内外の大会にも時折参加しています。ねんりんピックへは2012年のせんだい大会に初出場、2015年やまぐち大会では競技役員として参加し、今回のとやま大会が3回目でした。

ソフトテニス交流大会の特色は、チーム編成が70歳以上の男性と60歳以上の女性の混合ペア、60歳以上の男性ペアと60歳以上の女性ペア

アの3ペアによる団体戦であることです。山口県チームは初日の予選リーグでは岩手県、東京都Aと大阪府の3チームと対戦し、いずれも僅差でしたが、1勝2敗のリーグ3位で終えました。翌日の3位グループの決勝トーナメントでは、2回戦で堺市、3回戦で富山県Bを破り、準決勝では高知県に2-0で勝利し、決勝戦では本州最北県の青森県と対戦しました。第1試合は混合ペアが快勝し順調な滑り出しでしたが、2番手と3番手は奮闘するも破れ、2位で大会を終えました。しかし、監督としては、各ペアが互いに連携しながら持てる力を存分に発揮し、楽しくまた怪我もなく、予選から決勝まで全7試合を懸命に戦ったことは、とても嬉しく思っています。中でも、大野・石田の混合ペアの快進撃は見事でした。

個人的な感想ですが、本大会には70歳後半から90歳を超えた参加者が多数見られ、その素晴らしいプレーがとても印象的でした。この先達らがソフトテニスのレベルを一段と底上げされていると強く感じ、後に続く我々も一層の努力が必要であることをあらためて認識させられました。

最後に、富山県の選手やボランティアなどの関係者の皆様、大変お世話になりました。また、全国のソフトテニスプレーヤーの皆様、どこかでお会いしましょう。



山口県代表メンバー。(前右列端)



堂々と旗手を務めた西嶋さん。



ソフトバレーボール 「向陽クラブ」

かわたくによ

河田邦代さん

69歳

●参加歴：3回目

夫婦でつないだ、ワン・ツー・アタック！

夫婦でソフトバレーボールを始めて20年。多くの大会や招待試合を経験してきましたが、還暦を迎えたら必ず、ねんりんピックに出場しようと熱い思いを持っていました。その甲斐あって、これまでに2度出場。山口県では参加資格が1年おきのため、年齢を重ねていくほど県内予選も厳しくなる中、「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」の大会テーマのように私達の夢はつながり、このとやま大会に出場できることとなりました。そして、参加するからには、金メダルをとるという大きな目標を持って挑みました。

総合開会式はいつ来ても胸高鳴るものを感じます。幸いお天気にも恵まれ、遠くうっすら雪をかぶった立山連峰もはっきりと見え、3000メートル級の山々の懐に包まれて、山も私達を歓迎しているように思われました。

私達ソフトバレーボールの会場は黒部市で、全国から67チーム参加、ねんりんピックに初めて参加した年から数えて6年も経過すると、さすがに知らないチームもたくさんあり、多少不安もありましたが、予選リーグでは絶対1位になろうとチームが一丸になっていました。

初戦危ない場面もありましたが、私達チームの特徴である粘り強さとあきらめない気持ちを発揮し、1位になることができました。翌日は決勝リーグ戦、3チームが1勝1敗と同率になりセット率で金メダルを逃してしまいました。あと一歩というところだっただけに日がたつにつれ悔しさが募り、悔やまれてなりません。2日間の熱戦を終え、閉会式終了後、私達は富山の夜をしっかりと楽しむことにしました。

私達の暮らす長門市は、日本海に面し、海の幸、山の幸、そして、温泉もありと豊かな自然に恵まれたところで、富山には引けをとらない美味しいものもたくさんありますが、富山湾を見下ろす雄大な立山連峰も、深海に住む白エビもいません。夕食に食べた白エビのにぎりの美味しかったことと言ったら……。もう一度富山を訪れ、白エビのフルコースを思いっきりいただくという大きな目標ができました。

ねんりんピックを通じて、年齢を重ねても競技の楽しさを知り、自分に限界を作らずいつまでも挑戦し続ける気持ちを持つことなど、心の若さを持ち続けたいと思うしだいです。終わりに、この大会に関わった全ての関係者の皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。皆様ありがとうございました、そしてお疲れ様でした。



粘り強さが強みの「向陽クラブ」。(前列右側)



カローリング 「阿波吉野川」チーム(監督兼選手)

ふじもり いさお

藤森 勲さん

73歳

● 参加歴：1回目

良い仲間と相手に恵まれ優勝！メディアにも掲載

今大会は、カローリングが初めて参加種目になった記念すべき大会になります。4月に県内の予選会があり、その後、追加募集があったので参加の希望を申し出たところ運よく出場できることとなり、大感激！

11月2日の朝、徳島県庁で行われた県選手団の結団式で多くの方々から激励の言葉をいただき、そろいのユニフォーム姿で4台のバスに乗り込み、開催地の富山県へと出発、夕方5時過ぎには富山市内のホテルに着きました。場所を移し、夕食を兼ねた県選手団交流会があり、団長からの挨拶の後、参加チームの代表が明日以降の試合への意気込み等を語り、楽しいひとときを過ごしました。

3日は10時から富山県総合運動公園陸上競技場で総合開会式があり、待ち時間の合間に、ふれあい広場で富山のうまいもんコーナーやいいもんコーナーなどを楽しみました。開会式では1万人を超す参加者の入場行進と大会長(富山県知事)挨拶の後、立川志の輔さんや柴田理恵さん達も出演した楽しいアトラクションなどがあり、昼食弁当を食べながら観覧し盛況のうちに終わりました。

その後、試合会場の入善町総合体育館へバスで移動し、監督会議の後、カローリング開始式がありました。大会長挨拶の後、高齢者表彰などもあり、和やかなムードのうちに式が終わりました。その後、海沿いの

民宿で宿泊し、新鮮な美味しい海鮮料理でお酒も進み楽しい夕食となりました。

そしていよいよ試合当日になり、送迎バスで試合会場へ。第1試合は10時に始まり、私たちの試合は11時からです。試合時刻が近づくにつれ少しずつ緊張感が増してきましたが、第1試合が始まる頃には大分落ち着き、2試合とも運よく良い相手、良いコート、良いローラーに恵まれ、大量得点で運よく優勝することができて本当に良かったです。

帰りは黒部宇奈月温泉駅から北陸新幹線に乗り、金沢、大阪で乗り継ぎ、帰宅は夜中の2時頃になっていましたが、車中大会を振り返りながらルンルン気分で眠気もありませんでした。

大会が終了し、徳島県選手団の競技結果が地元紙の地域スポーツ面に掲載され、皆さんから祝福のことばをかけていただき、いまだに喜びに浸っております。

最後になりましたが、参加の機会を与えてくださったとくしま“あい”ランド推進協議会や関係者の方々に深く感謝しております。



共に戦った仲間と。(右端)



ポイントゾーンを狙う藤森さん。



ソフトテニス 「徳島チャレンジⅢ」チーム

しんがい ひとし

新開 均さん

66歳

● 参加歴：4回目

年齢を重ね、楽しくのぞんだとやま大会

ソフトテニスの「徳島チャレンジⅢ」は、ほぼ同じメンバーで3度目のねんりんピック出場です。1度目のとちぎ大会では優勝を狙って、全国上位選手をそろえて参加しましたが、予選リーグ1位で通過したものの、翌日は台風で中止。翌年のやまぐち大会では、決勝トーナメント2回戦敗退と、残念な結果で終わりました。そんなこともあり、とやま大会では年齢を重ねてきたこともあるので、楽しんで試合をしようと話し合っ、大会にのぞみました。

総合開会式では、私が選手団の旗手に選ばれ、先頭を歩かせていただきました。私自身は4回目の出場です。初めての大会でしたが、楽しく行進できて、印象深い大会になりました。

大会2日目はいよいよ競技が始まりました。ソフトテニスは3ペアの団体戦で、1番手が70歳以上男子・60歳以上女子のミックス、2番手が60歳以上男子、3番手が60歳以上女子のペアです。初戦の対北海道戦では1番手が負けましたが、2、3番手が勝ち、2対1で勝利、堺市、

神奈川県には快勝して第1位グループ決勝トーナメントに進出しました。

3日目は最終日でいよいよ結果が出ます。1回戦の東京都Aに2対1、準々決勝の奈良県に2対0で勝利し、準決勝では佐賀県との対戦。1番手の渡辺・宮田ペアは接戦となりましたが、75歳の宮田選手のボレーが決まり、4対3で先勝、2番手の新開・佐藤ペアは4対0で快勝し、決勝進出となりました。

決勝の相手は兵庫県で、全国大会の上位でよく対戦する、馴染みの選手との試合になりました。1番手の渡辺・宮田は4対1で強豪に快勝、新開・佐藤は2対4で敗退し、3番手の小原・犬伏ペアは大接戦でナイターでの試合となり、3対3のファイナルゲームで惜しくも敗退、残念ながら準優勝に終わりました。

優勝を狙って出場したら勝てず、楽しんで参加したら準優勝と、あらためてソフトテニスは難しい競技と感じました。次回は、10年後、最高齢チームで参加しようかと話しています。

最後になりましたが、大会を運営していただいた富山県関係者、総合開会式で徳島県を担当してくれた「富山きときと夢 KIDS」の皆さん、後方支援いただいた徳島県担当者の方々にお世話になり、お礼申し上げます。



試合後に晴れやかな表情を見せる選手たち。(右から2人目)



入場行進で旗手を務めた新開さん。



ソフトボール 「瀬戸製作所友クラブシニア」チーム(監督)

くぼ たかし
久保 隆さん 72歳 ● 参加歴：4回目

気心知れた仲間たちで25年、ねんりん初優勝！

私達のチームは、壮年(40代)時代からのチームを母体に、結成からかれこれ25年が経ちました。多少の入れ替わりがあったものの、そのほとんどがソフトボール好きの集まりで、全国大会優勝を目指して日々練習してきた仲間たちです。練習は週2回、壮年・実年(50代)チームが合同で行っています。練習では、若手の走塁や肩の強さ、打球の速さに戸惑いながらも、一緒にソフトボールができることが楽しみなのです。グローブにボールが当たっているのに捕れない、少し後ろに飛んだフライのボールが捕れないなど、戸惑いながらも白球を追い続けています。

本大会では最終日が雨天中止となり、4チーム優勝となりました。こればかりはどうしようもないですが、勝っても負けても強いチームと試合をしたかったです。

どの大会もそうですが、まずは初戦をどう勝ち抜くかが今後の試合に影響します。特に本大会1回戦が対静岡県ということで、チーム全体に気合が入りました。試合時間が1時間または

5回ということで、先取点を取られれば焦り、リズムが取れなくなり、負ける確率が高くなります。逆に言えば、先取点を取れば非常に有利な戦いとなるので、まずは相手より先に点を取ることに集中しました。今回は1回戦から4回戦まで、戦略通り先取点を取ることができ、いい流れで試合に臨めたと思います。この歳になっても、いい緊張感がある中で試合ができるというのは、ワクワクドキドキするものです。前月の全日本シニア大会ではベスト8にとどまりましたので、今回の優勝という結果は一步前進し、重要なモチベーションとなりますが、健康で練習や試合ができるというのが、最高の至福といえるのではないのでしょうか……。

大会関係者の皆さん、ソフトボール会場での炊き出しや飲み物の提供など心温まるおもてなしをしてくださった皆さん、旅館の皆さん、かがわ健康福祉機構の皆さん、大変ご苦労さまでした。そしてありがとうございました。立山連峰をバックに、ねんりんピックに参加できたことは、思い出深く刻まれました。



優勝の賞状を手にピースサイン。(前列左から4人目)



試合前の緊張の一瞬。(奥列右から2人目)



将棋 「香川」チーム（副将）

おおにしよし き

大西芳樹さん

64歳

●参加歴：2回目

渾身のベスト16入り！将棋も交流も思い出に

将棋交流大会は小矢部市のクロスランドおやべメインホールにて、4日は団体戦予選リーグが行われ、5日は団体戦決勝トーナメントと団体リーグ敗退チーム選手による個人戦トーナメントが行われました。

チーム香川は、観音寺支部に所属する、大将玉地良行、副将大西芳樹、三将中山精壽がメンバーでそれぞれが実力を十分に発揮しました。初戦であたった札幌ファイターズが強豪ぞろいで最難関と思われましたが、大将が早くに勝利を収めて勢いがつき、3対0で押し切りました。望外の勝利でした。続く滋賀県チームに2対1、岡山県の桃太郎に3対0と連勝し、C組第1位で決勝トーナメント進出を果たし、ベスト16を確定しました。

その時の嬉しさと言ったらありません。なにしろ全国の強豪・古豪のひしめく64チーム中の16位以上となったのですから。疲れていたはずなのに、3人とも翌日の決勝トーナメントに向けて力が湧き上がっていました。一緒に詰将棋を解いたり次の一手を考えたり定跡の復習をしたりして、団体戦ならではの宿での過ごし方も楽しいものでした。

しかし、翌日の決勝トーナメント1回戦では秋田県チームに1対2で敗れ、念願のベスト8入りは実現できませんでした。内容的にも僅差だっただけに残念ではありましたが、健闘したと思います。また、試合結果も大切ですがそれが全てではないと実感しています。ねんりん

ピックに参加することで楽しいできごとや発見があり、多くの人と交流ができたのでした。

地元の将棋の支部の方々の尽力や生徒の皆さんの応援、地域の人たちの心遣いや親切はとても温かくありがたいものでした。全国の選手の方々との交流でのお国自慢なども楽しいものでした。例えば「香川の人は毎日うどんを食べるんですか」とか「金刀比羅に行ったことがあるんですよ」などと言われたりしました。秋田県チームの人たちには試合前にずいぶんとお米と美人の自慢をされ、楽しく聴き過ぎたのが敗因の一つかもしれません（冗談）。

何より心に残っているのは60歳台の自分たちが若造に思えてしまうような多くの人生の先輩方が大変お元気で活躍されていること、自分たちも健康に留意し、好きな将棋を楽しくかつ真剣に指し続けていきたいです。最後になりましたが、参加するにあたってお世話になりました関係者の方々に心よりお礼申し上げます。



強豪との初戦を終えて、ほっと一息。(右端)



俳句

おのやまさん
小野山征男さん 76歳 ●参加歴：1回目

弟が残りて奇跡の親孝行

私たち家族は、次男に留守番を頼み、2018年11月4日、ねんりんピックとやま大会の俳句交流大会に参加することができた。感動の旅を終えて、しばらくたった11月25日、地元の高知新聞に次女の投稿記事が載った。「3日間の親

孝行」というタイトルであった。

驚いたのはタイトルではない。隣の紙面に、留守を守った次男の記事が載っていたことだ。14面に姉、15面に弟。姉は後日、「弟が残りて奇跡の親孝行」の句を作っている。

奇跡は大げさだが、三段抜きのイベント記事は、父の代理を果たした次男のガッツポーズが証明していた。私は感涙した。

2018年9月、富山から、ねんりんピック俳句交流大会の入選通知と表彰式への出欠の問い合わせがあった。妻は「行きたい」と言う。私は言下に「駄目だ」と言った。表彰式のある日は、私の出席を必要とするイベントが決まっていたためである。すると、次男が「そのイベントは、僕が責任を持つ」と言った。子どもたちは皆で母親の夢をかなえようとしていたのである。私たち夫婦は、かくして子どもたちに見守られながら富山へと旅立った。以下は次女の投稿の全文である。



表彰会場にて。次男に留守を託して家族が集結。(左から2人目)

3日間の親孝行

角原 雪 44歳 会社員 高知市

富山から、父に俳句の入賞通知が来たとき、母が「行きたい」と言い出した。それなら、私は一世一代の親孝行を計画、妹と大阪の兄に相談した。兄は「大阪から富山までは僕が運転する」と言った。当日、私は妹と運転を交代しながら大阪へ。大阪では、大型乗用車をレンタルして兄が待っていた。琵琶湖で昼食、一路、富山を目指した。日本海が一望できる旅館に宿泊。翌朝、立山連峰が望める雨晴海岸で、妹が感嘆の声をあげて一句を詠んだ。「雨晴らす 義経岩に 秋の虹」と。黒部の温泉街では、母が「錦秋の温泉郷に 下駄の音」、兄が「北陸路 三日で済ます 親孝

行」と詠んだ。ねんりんピックで表彰された父の俳句は「暮らうしるは 特に振り向かず」であった。私も一句詠む流れになったが、結局作れないまま夜遅く高知に帰っていた。

兄から、「運転お疲れ。疲れだろう。親孝行できる機会を作ってくれたことに感謝します。」とメールが入った。

往復1400キロ。母の希望で、母のお母さんのおふところである長野県上田市まで足を伸ばすと、いう2泊3日の強行軍の旅であった。疲れは翌日も残っていたけれど一句詠んだ。「旅終えて やれやれ南園 土佐の秋」



ソフトテニス 「ももたろう」チーム(選手代表)

なかむらいくよ

中村郁代さん

77歳

●参加歴：5回目

5度目の出場でかみしめた、テニスが続けられる喜び

岡山市ソフトテニス代表として、混合ダブルスに出場しました。ねんりんピック5回目の出場です。今回は代表者としての参加でした。

富山県総合運動公園陸上競技場での開会式は盛大でした。式典前のアトラクション、伝統芸能からきときと夢体操まで楽しみました。

開会式の入場行進では、各都道府県・政令指定都市の代表が選手団の紹介をしました。私も岡山市の紹介をしました。選手団の紹介者が待機しているとき、鈴木スポーツ庁長官の「おはようございます」のさわやかな挨拶の声に感動しました。

開会式の後、高岡市でソフトテニスとゲートボールの合同開始式が開催されました。特別表彰があり、高齢者賞をいただきました。77歳です。

ソフトテニスの会場は高岡スポーツコアというところ。岡山市の成績は11月4日の予選リーグは2位でした。5日の決勝リーグでは、2位グループ決勝トーナメントで1回戦敗退。2日間ともお天気がよく、汗ばむときもありました。

対戦相手との試合前の交流は楽しいひとときでした。ホテルから試合会場まで1km以内だったので、岡山市選手団は2日間徒歩で移動。みんな元気ががんばりました！

毎日のお昼のお弁当も楽しみでした。富山の美味しいお米と特産物を使った色とりどりのおかず、大変おいしくいただきました。

今回は5回目の出場で、1回目は広島、2回目は群馬、3回目は北海道、4回目は熊本でした。2回日の群馬大会では1位グループで優勝、ソフトテニス誌の表紙にも載りました。うれしい

体験しております。

6日に帰岡しましたが、午前中は高岡で市内観光をしました。国宝瑞龍寺、三大大仏の高岡大仏等です。富山のおみやげもたくさん買いました。

ソフトテニスは80歳になってもできると思います、週3回以上の練習とOGクラブに所属して、年数回の試合に出場しています。また、岡山市ソフトテニス壮年会のお世話をしています。壮年の会ですが、皆さま例会の参加を楽しみにしております。

私生活では化粧品の代行店をしており、日々の規則正しい生活がテニスが続けられるものになっていると思っています。



高岡大仏前で。試合後の観光も楽しい思い出。(右から2人目)



水泳 自由形 25m・50m 「広島市」チーム

こむら たかし
小村 堯さん 78歳 ●参加歴：7回目

水泳を楽しむ ― 緊張感と交歓で身も心も新鮮に

ねんりんピックへの参加は、第13回大会（大阪）を皮切りに、とやま大会で7回目となる。特に今回の大会参加には、とても感慨深いものがあった。というのも、今から丁度60年前の1958年、高校3年生のとき、ここ富山の国体に参加したからである。以来、実に半世紀以上経つての、しかも同じ水泳競技を通しての富山再訪に、えもいわれぬ思いを深くした。もちろん、今では町並みに当時の面影など残っているはずもなく、とはいえ、ただ懐かしく記憶の一片を辿りながら、様変わりしたあちらこちらを散策しながら、しばし思い出に浸った。

私たちの競技・水泳は、立派な競技施設に加え、関係者のご尽力により競技運営もきわめてスムーズに行われ、参加者それぞれとても満足に競技ができたことに感謝している。さらに加えて、小生、ここ数年来、腰痛に悩まされており、特にスタート時、そしてターンの際、腰や首に痛みを感じていたが、今回は、富山県理学療法士会の方々による懇切な施術のサービスが行われ、大いに助けられたことに感謝しお礼を申し上げたい。

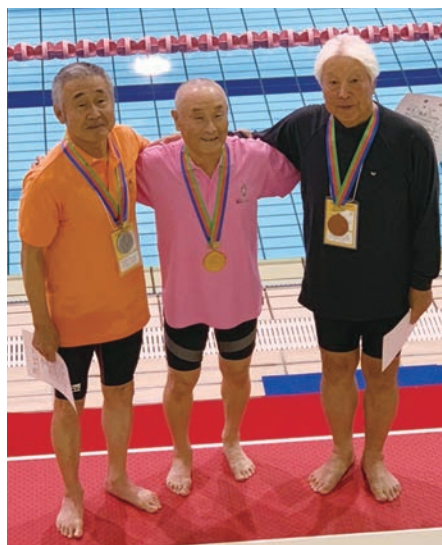
高校生以来、泳ぐことも少なく、50歳を過ぎた頃から体調のすぐれぬことが多くなり、受診したところ軽い狭心症とのこと。医師から運動を勧められ、これを契機に健康第一をモットーに再び泳ぎ始めた。以来、県内外のマスターズ競技会等への参加を、大いに楽しんでいる。

ご存知のごとく、マスターズの大会は同年代（5歳刻み）での競い合いなので張り合いがある。レースが近づくとつれて高まる緊張感がとても心地よい。年甲斐もなく尿意を催したり、

心臓はドキドキと。昨今、日常生活の中では余り味わうことのなくなったこうした昂ぶりが、軟化しつつある脳を刺激し、活性化に多少なりとも貢献してくれているのでは？ てなことを期待しながら、今日もせっせとプールに通っている。

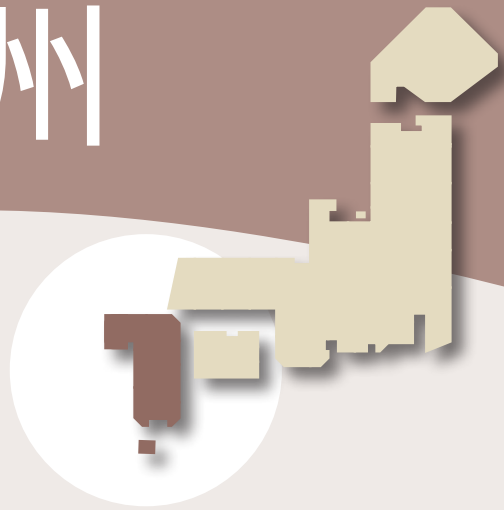
そして、レース後の楽しみが、反省会と称した打ち上げ。互いの泳ぎっぷりを批評し合い、はたまた病院通いや年金、介護と尽きることのない他愛のない話題で酌み交わす杯の進むこと、進むこと…。

私たちの身体は好むと好まざるとに拘らず、加齢とともに確実に衰退の方向へと進んでいく。精神的、肉体的な衰えを痛切に感じる昨今、水泳競技会への参加が、こうした衰えの速度を和らげてくれているのかな、と思ったりもしながら水泳を楽しんでいる。



自由形（75～79歳の部）25m 1位、50m 3位。（右）

九州



長崎県	増田明子さん		ソフトテニス	62
熊本県	小笠原亨さん		卓球	63
	瀬海幸一さん		ソフトボール	64
宮崎県	愛甲鈴代さん		ゲートボール	65
	駒木省三さん		ボウリング	66



ソフトテニス 「がんばらんば長崎」チーム

ますだあきこ

増田明子さん

61歳

●参加歴：1回目

病を乗り越え、ソフトテニスで健康人生！

長崎県予選会。決勝戦、とうとうファイナルゲーム。相手のマッチポイント。あと1点で負けるところから、相手のミスで形勢逆転。慎重にボレーを決めて、奇跡の全国大会出場！

夫のすすめで55歳から始めたソフトテニス。もともと運動が好きで、若い頃はバドミントンの選手だったこともあり、大して不安は感じていなかった。しかし、長年の運動不足で足がもつれ転倒すること多発。それを見ていた友人に、「亀がひっくり返ったようだ」と笑われる。倒れるのを止めようと腹筋・背筋に力を入れようとするが、スローモーションのように倒れる始末。自分でもつい笑ってしまった。

一念発起。毎朝出勤前に30分間のミニゲームを3年間続けた。すると、足のもつれもなくなり、仕事の疲労感も激減！ ゲームでいいプレーをするとみんなが褒めてくれることもあり、ソフトテニスの面白さに目覚める。

58歳で子宮がんが見つかった。46歳で乳ガンを克服していたので、今回も負けないという強い気持ちで治療に専念した。術後4カ月で夫とともに出場した全国夫婦大会では、夫の頑張りもあり、感動の夫婦での初優勝。

その後、仕事に復帰したが、体調が思わしくなく59歳で仕事を辞めた。これまで忙しく働いてきたが、ゆっくりと静養し、少しずつソフトテニスを始めたら、体力も回復し

ていった。元気になると、もっと強くなりたい、試合に勝てるようになりたいという強い欲望が芽生え、いろいろな人からアドバイスをもらい、考えながら自分なりに技術や心を鍛えていった。明るく楽しく過ごすうちに、お陰で以前よりも健康的になった。

「ねんりんピック富山2018」に参加して、たくさんの方のパワーや素晴らしいプレーを見せてもらい、自分なりの成果と課題を見つけることができ、大変有意義だったと思う。健康であればこそ、このような体験ができるのであり、ソフトテニスに誘ってくれた夫に感謝したい。毎日の練習につきあってくださったクラブの皆さんにもお礼を言いたい。そして、生き甲斐をもたせる「ねんりんピック」という全国大会を開催してくださった長寿社会開発センターの皆様にも感謝したい。

次は、夫とミックスダブルスで、もう一度「ねんりんピック」に出るのが目標となった。これからも健康維持のためにソフトテニスを楽しみながら続けていくつもりである。



総合開会式の会場にて。健康に感謝！



チームの面々と。(前列左から2人目)



卓球 「熊本県りんどう」チーム（監督兼選手）

おがさわら とおる
小笠原 亨さん 71歳 ●参加歴：4回目

「明るく楽しい人生」の新たなスタートラインに立って

さわやかな5月の風の中、「ねんりんピック富山2018」の熊本県予選（卓球）が始まった。今回の予選出場者は、例年になく全国・九州の中でも屈指といわれる選手が多く、激戦の県内出場枠（男4、女4人）に入ることは至難の予選会となった。

若い頃は卓球や将棋を楽しんでいたが、仕事の都合もあり、30年間まったくスポーツから遠ざかっていた。しかし、超高齢化社会を迎え、自分自身、健康で生きがいのある第三の人生を送ろうと、60歳の定年を機にラージボールに没頭することとなった。

幸い、その予選をクリアし、熊本県代表の座を得た。チームのメンバーが決定すると同時に、毎月2回の合同練習会を開催するなど、団結と所期の目標達成へ向けて始動することとなった。また、ねんりんピック参加チームによる近県大会（熊本、福岡、佐賀）を催し、7チームによる親善試合と交流会（宴席）を行った。

その結果は、熊本県チームが全勝し、その士

気は一層高まることとなった。

11月3日、いよいよ「ねんりんピック富山2018」が開幕した。1万人を越す選手団の見事な入場行進、炬火入場、そして、式典とメインアトラクション。総合運動公園に大歓声が湧き起こった。それは華やかな、しかも郷土色豊かな開会式であった。

北アルプスを望む立山連峰の卓球会場では、熊本県選手団の「落胆と一筋の満足感に近い声」が交錯した。熊本県の結果は以下のとおりである。

- 一次予選リーグ 第2位（残念）
- 北海道3-2熊本県（北海道は準優勝）
- 二次予選リーグ（2位グループで1位）
- 決勝トーナメント（2位グループ優勝）

しかし、ねんりんピックの目的は、健康・長寿を目指した生涯スポーツと地域を超えた交流の輪を広げることとされる。その意味では、①8人全員が2回以上出場し、他県の仲間とラケットを交えたこと。②多くの仲間と再会できたこと。③チームメートと7か月間、練習ができたこと。これが私の収穫であり、これからの人生を変える新たな出発点となった。明るく楽しい余生を送るために。



一次予選リーグで京都市と対戦し、勝利。（左側）



優勝メダルを掲げてVサイン！（後列左から2人目）



ソフトボール 「AS エンゼル古閑出」チーム(選手代表)

せ かいこういち

瀬海幸一さん

65歳

●参加歴：2回目

今も甦る感動 ― 優勝、そして心尽くしのおもてなし

11月2日、希望に胸膨らませ熊本駅を出発し、新幹線、在来線を乗り継いで石川県片山津温泉で一泊。夕食を兼ねて熊本県選手団の懇親会が催され、選手同士の結束力を高めました。

翌3日、総合開会式が行われる富山県総合運動公園陸上競技場に到着したとき、会場から見える立山連峰山頂部は雪化粧をしており、われわれ熊本県人は驚きと感動を覚えました。入場行進にはスタンドからたくさんの拍手歓声があり、今もその光景を思い出せば感動がよみがえります。

場所を移し、合同開始式に参加。監督の高齢者賞表彰があり、歓迎のアトラクションがありました。全国大会1位・2位と地元のチンドンによる趣のある演奏、越中おわらの唄と踊りなどが披露され、叙情豊かで気品高く、哀相の中に優雅な趣を感じました。

4日、待ちに待った試合です。初戦の相手は千葉市代表の磯辺シニアです。初戦なので少し緊張しているかなと思いましたが、初回到点を取ったことで硬さもほぐれ、勝利することがで

きました。2回戦も同様に初回から点を取り、リラックスして試合ができました。

翌日はベスト16、ベスト8の試合です。対徳島戦は打線が爆発し、大量得点で快勝。準々決勝の相手は優勝候補筆頭の静岡市代表です。初回2点を先取するも、すぐに同点に。動揺してはいけないと思い、ベンチから選手を鼓舞。気合を入れ直したことが、最終回の勝ち越し点へとつながったと思います。

宿へ帰り、明日の準決勝・決勝がこの1年間の集大成であると皆に話し、夕食のときは、他5県のチームから「優勝してこい！」とエールを送られ、大変ありがたく思いました。翌日の試合は雨で中止。4チームの合同優勝となりましたが、チーム全員で勝利の感動に浸りました。

ボランティアスタッフの皆様には大変よくしてもらい、最終日には富山駅でのお見送り、おもてなしに感謝です。富山には観光名所、史跡も多数あります。今回は日程の都合で見学できませんでしたが、プライベートで訪れてみたいと思います。



優勝の感動を胸に刻み、表彰式へ。中央でトロフィーを掲げる瀬海さん。



ゲートボール 「月知梅」チーム(主将)

あいこうすずよ
愛甲鈴代さん

71歳

●参加歴：6回目

やったー、日本一！

やった、やった、とうとう日本一になった。

ねりんピック全国大会に初めて参加したのは、2007年いばらき大会でした。まだ、ゲートボールを始めて3年目の頃でした。高齢になって夫婦で同じ趣味を持ったほうがよいと主人に誘われ、私のほうがはまりました。それから、2009年北海道・札幌大会、2011年くまもと大会、2014年とちぎ大会、2016年ながさき大会、そして昨年とやま大会に出場しました。この間、決勝トーナメントに上がったのは、くまもと大会と今回だけです。なんとか「一度は頂点に立ちたい！」との思いで練習を重ね、「今年は優勝できるのでは？」とチームの皆と話していました。

前年、前々年と九州選手権大会で、若手に混じり第3位になっていましたし、ねりんピック県予選会で3連覇でき、全国大会でもなんとか入賞できるのではと張り切っていました。今回の開催地は富山県の高岡市で、奇しくもわが

「月知梅」チームも宮崎市高岡町が地元。梅の名所の月知梅からチーム名を付けています。

大会2日目、やっと試合が始まりました。各都道府県、政令指定都市の予選を勝ち抜いた142チームの参加です。わが月知梅チームは予選3勝で勝ち上がり、いよいよ決勝トーナメントです。次から次と勝ち上がり休む間もなく試合を続け、6試合して、とうとう優勝できました。決勝トーナメントでは月知梅チームに負けたチーム、同じ宮崎県から参加した2チーム、その他のチームの方々から多数応援していただき励みになりました。感激して抱きついて喜んでくださった島根県の「つのい」チームの方。各試合、一人がミスしても他の4人が助けるといったチームワークのおかげでした。

宿に帰り、夕食の場では対戦した福岡県の方が祝福してくださり、他のチームの方々もお祝いの言葉をかけてくださいました。帰りのバスでは、宮崎県の役員の方、他の競技で参加された方々からもお祝いの言葉をいただき、とても嬉しかったです。

ねりんピック全国大会は全国各地で開催

されます。ゆっくり観光することはできませんが、他県の方々との親睦、地元の方々との交流が魅力です。また県予選会で勝ち上がり、次の全国大会に参加したいと思います。県社協役員の皆様、大変お世話になりました。



表彰式で「全国大会優勝」の喜びをかみしめるチームメート。(左端)



狙いを定めて、日本一へ。



ボウリング 「エメラルド」チーム(監督兼選手)

こまきしょうぞう

駒木省三さん

77歳

●参加歴：2回目

準優勝！ 輝く「エメラルド」の栄冠

東京生まれの私が定年を迎え宮崎へ来て、早14年。宮崎ではクラブに参加し、たくさんの仲間と出会い、3年前に初めてわんりんピックながさき大会に吉田さんと仲間4人で参加しました。結果は、頑張りましたが入賞に届かず、悔いが残りました。

そして今回、宮崎県予選で2連覇して、全国大会2回目の挑戦に吉田さんとクラブの熊元さん、多嶋田さんの4人で向かうことになりました。長時間の移動後、大会前日のホテルでの宮崎県選手団交流会では、サッカー、健康マージャンの方々と話が弾み、楽しいひとときを過ごすことができました。

総合開会式は暖かな快晴に恵まれ、東京の仲間との元気で久しぶりの再会に話が咲きました。

普段から各大会で名の知られている上手な選手もわかっていたので、個人戦は無欲で楽しもうと思い、ボックス内の東京の仲間とお話をしながら楽しく投げられました。しかし、今ひとつコンディションがつかめないまま3ゲームが

終了。チームメイトも同じく結果が出せずに終わってしまいました。

続いて得意のチーム戦では、前半1～2ゲームで私が出遅れるも吉田さんにカバーしてもらい、3ゲーム目にやっと2人でビッグゲームを打って終了しました。掲示板を見て、よもやの同ピン6位にびっくり。3位以下は混戦となり、そこから多少のプレッシャーとやる気が出て減多にないチャンスだと思い、2人で「よい思い出をつくろう」と約束しました。

翌日、先に終了した熊元さん、多嶋田さんの応援を背にゲームは進行。私の1ゲーム目は出遅れましたが、吉田さんは前日同様に快調。その後、私は調子を取り戻し、2人で盛り上がり終了しました。6位ぐらいには入るかな？と結果発表を待っていると、「準優勝、エメラルド」のアナウンス。思わず吉田さんとハイタッチし、喜びを分かち合いました。久しぶりの全国大会入賞です。吉田さんの頑張りには感謝、感謝、長くペアを組んできた甲斐があり、「エメラルド」が輝いた最高のやま大会になりました。

これからも生涯スポーツとして、健康に気をつけながらボウリングを楽しめたらと思います。親切丁寧にサポートしていただいた宮崎県社会福祉協議会の皆様、そして、富山県の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



見事「準優勝」。やりきった表情で吉田さんと。



栄光へのストライク！

Information



ねんりんピックとは

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。

ねんりんピックは厚生省創立50周年を記念して昭和63年(1988年)の第1回ひょうご大会以来毎年開催されています。

卓球、テニス、囲碁、俳句などの交流大会や美術展、音楽文化祭、健康福祉機器展などのさまざまなイベントを通じて、地域や世代を超えて参加者の交流の輪が全国に広がっています。

「ねんりんピック富山 2018」大会情報

平成30年11月3日から6日の4日間、「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」をテーマにねんりんピック富山2018が開催されました。とやま大会では10市4町1村で27種目の交流大会が開かれ、全国から集まった約1万人の選手が日ごろの成果を発揮しました。

■ 動画配信

ねんりんピックの大会の様様を動画でご覧いただけます。(過去の大会についても動画を配信しております。大会動画配信ページのリンクからぜひご覧ください。)

<http://www.nenrinpic.com/toyama2018/> (とやま大会)

■ 最高齢者 (とやま大会公式記録集より)

性別	種目	所属	年齢
男性	囲碁	富山県	94
女性	弓道	千葉県	93

開催種目・平均年齢（とやま大会公式記録集より）

競技種目	開催市町村	参加チーム数	参加者数	平均年齢
卓球	魚津市	70	490	69.8
テニス	富山市	72	462	68.2
ソフトテニス	高岡市	66	410	67.0
ソフトボール	富山市	65	932	66.9
ゲートボール	高岡市	142	810	75.9
ペタンク	南砺市	67	234	73.8
ゴルフ	富山市	56	166	69.3
マラソン	滑川市	—	223	69.0
弓道	射水市	70	455	69.9
剣道	砺波市	69	388	66.8
水泳	富山市	—	313	70.2
グラウンド・ゴルフ	高岡市	—	392	75.6
ラグビーフットボール	魚津市	27	533	68.0
ボウリング	富山市	73	146	69.5
サッカー	富山市	64	1,134	64.5
ソフトバレーボール	黒部市	67	478	65.8
ウォークラリー	立山町	44	220	73.0
太極拳	富山市	59	415	68.9
ダンススポーツ	氷見市	54	414	68.6
パークゴルフ	射水市	34	133	73.1
カローリング	入善町	52	187	73.3
ビーチボール	朝日町	31	165	67.6
囲碁	上市町・舟橋村	63	180	73.1
将棋	小矢部市	64	188	70.7
健康マージャン	射水市	69	275	73.6

※俳句及び川柳交流大会を除く



ねんりんピックに参加するには

■ 選手として参加する

都道府県・政令指定都市ごとに選手団が結成されます。また、美術展でも60歳以上の方の作品募集を行っていますので、お住まいの都道府県・政令指定都市選手派遣団体へお問い合わせください。70ページから選手派遣団体の一覧をつけておりますので、ご活用ください。

■ イベントに参加する

総合開会式、総合閉会式、講演会、音楽文化祭などのイベントでは事前に入場者募集を行います。また、ふれあい広場をはじめ、どなたでもお楽しみいただけるイベントも数多く開催しますので、大会公式ホームページで情報をご確認の上、ぜひご参加ください。

■ これからの開催地

大会会期	開催地
第32回（2019年度）	和歌山県
第33回（2020年度）	岐阜県
第34回（2021年度）	神奈川県
第35回（2022年度）	愛媛県
第36回（2023年度）	鳥取県

都道府県・政令指定都市選手派遣団体

都道府県・政令指定都市	選手派遣団体・部署名	電話番号
北海道	(福) 北海道社会福祉協議会 北海道長寿社会推進センター	011-271-1574
札幌市	(一社) 札幌市老人クラブ連合会 高齢福祉課	011-614-0153
青森県	(福) 青森県すこやか福祉事業団 青森県長寿社会振興センター	017-777-6311
岩手県	(公財) いきいき岩手支援財団 総務・健康支援課	019-626-0196
宮城県	(福) 宮城県社会福祉協議会 人材育成部 いきがい健康課	022-223-1171
仙台市	(公財) 仙台市健康福祉事業団 シルバーセンター いきがい推進課	022-215-3192
秋田県	(福) 秋田県社会福祉協議会 地域福祉・生きがい振興部	018-824-2888
山形県	(福) 山形県社会福祉協議会 地域福祉部	023-622-5805
福島県	(公財) 福島県老人クラブ連合会 事業課	024-523-2131
茨城県	(福) 茨城県社会福祉協議会 茨城わくわくセンター	029-243-8989
栃木県	(福) とちぎ健康福祉協会 事業部事業企画課	028-627-4710
群馬県	(公財) 群馬県長寿社会づくり財団 生きがい健康グループ	027-255-6511
埼玉県	(公財) いきいき埼玉 高齢者いきがい支援センター	048-728-7951
さいたま市	さいたま市 保健福祉局 長寿応援部高齢福祉課	048-829-1260
千葉県	(福) 千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部	043-245-2208



千葉市	千葉市 保健福祉局 高齢障害部高齢福祉課	043-245-5169
東京都	(公財) 東京都体育協会 事業部 生涯スポーツ課	03-6804-8122
神奈川県	(公社) かながわ福祉サービス振興会 かながわ長寿社会開発センター かながわシニアフェスタ事務局	045-640-6128
横浜市	横浜市 健康福祉局 高齢健康福祉部高齢健康福祉課	045-671-2406
川崎市	川崎市 健康福祉局 長寿社会部 高齢者在宅サービス課	044-200-2651
相模原市	相模原市 保険高齢部 高齢者支援課	042-769-9231
新潟県	(福) 新潟県社会福祉協議会 地域福祉課 新潟県長寿社会振興センター	025-285-1400
新潟市	新潟市 福祉部 高齢者支援課	025-226-1290
山梨県	(福) 山梨県社会福祉協議会 福祉振興課	055-254-8610
長野県	(公財) 長野県長寿社会開発センター	026-226-3741
富山県	(福) 富山県社会福祉協議会 富山県いきいき長寿センター	076-432-6010
石川県	(福) 石川県社会福祉協議会 長寿生きがいセンター	076-258-3135
福井県	(福) 福井県社会福祉協議会 福井県すこやか長寿センター	0776-24-2433
岐阜県	(公財) 岐阜県教育文化財団	058-233-8161
静岡県	(公財) しずおか健康長寿財団 健康増進生きがい推進課	054-253-4221
静岡市	静岡市 保健福祉長寿局健康福祉部 高齢者福祉課	054-221-1086
浜松市	浜松市 健康福祉部 高齢者福祉課	053-457-2789

愛知県	(福) 愛知県社会福祉協議会 福祉生きがいセンター 長寿生きがい振興部	052-212-5521
名古屋市	名古屋市 健康福祉局 高齢福祉部 高齢福祉課	052-972-2542
三重県	(福) 三重県社会福祉協議会 福祉研修人材部	059-213-0533
滋賀県	(福) 滋賀県社会福祉協議会 滋賀県レイカディア振興センター	077-567-3900
京都府	(公財) 京都SKYセンター 活動支援課	075-241-0226
京都市	(一社) 京都市老人クラブ連合会	075-354-8744
大阪府	(一財) 大阪府地域福祉推進財団 事業者支援課	06-4304-0294
大阪市	(一財) 大阪府地域福祉推進財団 事業者支援課	06-4304-0294
堺市	(一財) 大阪府地域福祉推進財団 事業者支援課	06-4304-0294
兵庫県	(公財) 兵庫県生きがい創造協会 生涯学習部	079-424-9832
神戸市	(公財) こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 事業推進課	078-743-8092
奈良県	(福) 奈良県社会福祉協議会 すこやか長寿センター	0744-29-0120
和歌山県	(福) 和歌山県社会福祉協議会 和歌山県いきいき長寿社会センター	073-435-5214
鳥取県	(福) 鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 明るい長寿社会づくり推進事業担当	0857-59-6332
島根県	(福) 島根県社会福祉協議会 地域福祉部 長寿社会振興係	0852-32-5981
岡山県	(福) 岡山県社会福祉協議会 地域福祉部 長寿社会推進センター	086-226-2835
岡山市	(福) 岡山市社会福祉協議会 地域福祉課	086-225-4051
広島県	(福) 広島県社会福祉協議会 総務課	082-254-3481



広島市	(公財) 広島市文化財団 ひと・まちネットワーク部	082-541-5335
山口県	(福) 山口県社会福祉協議会 地域福祉部 山口県生涯現役推進センター	083-928-2385
徳島県	(公財) とくしま“あい”ランド推進協議会 業務第一課	088-655-5080
香川県	(公財) かがわ健康福祉機構 長寿社会部	087-863-0222
愛媛県	(福) 愛媛県社会福祉協議会 長寿社会振興センター	089-921-5140
高知県	(福) 高知県社会福祉協議会 福祉人材部 いきいきライフ推進課	088-844-9054
福岡県	(福) 福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 共生社会推進課	092-584-3377
北九州市	北九州市 保健福祉局 地域福祉部 長寿社会対策課	093-582-2407
福岡市	(公社) 福岡市老人クラブ連合会 全国健康福祉祭参加事業福岡市実行委員会	092-713-1340
佐賀県	(公財) 佐賀県長寿社会振興財団 総務課	0952-31-4165
長崎県	(公財) 長崎県すこやか長寿財団 健康生きがい推進課	095-847-5212
熊本県	(一財) 熊本さわやか長寿財団 生きがい推進グループ	096-354-3083
熊本市	(公社) 熊本市シルバー人材センター	096-322-3300
大分県	(福) 大分県社会福祉協議会 市民活動支援部 長寿いきいき班	097-553-1150
宮崎県	(福) 宮崎県社会福祉協議会 安心生活部 長寿社会推進センター	0985-31-9630
鹿児島県	(福) 鹿児島県社会福祉協議会 長寿社会推進部	099-250-7441
沖縄県	(福) 沖縄県社会福祉協議会 沖縄県いきいき長寿センター	098-887-1344

ねんりんピック富山 2018

参加選手体験談集
ねんりんピックで輝くシニアの星

発行日 2019年3月29日

発行所 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446

東京都港区西新橋3-3-1

KDX西新橋ビル6階

Tel. 03-5470-6753

<https://nenrin.or.jp/>

※無断転載・複製を禁じます。

